

平成15年度 特別案件等調査団報告書 「持続可能な観光開発（カリコム諸国）」

平成16年10月

独立行政法人国際協力機構
沖縄国際センター

沖縄セ

JR

04-001

<序 文>

沖縄県は美しいサンゴ礁を有し、多様な生物の生息地である海にかこまれた島嶼県である。また、日本で唯一の亜熱帯地域に属し、主用産業は観光である。毎年、日本の本土からは豊かな自然を楽しもうと大勢の観光客が訪れている。その影には、美しい海を維持しつつ、観光客誘致に努力してきた沖縄県の姿がある。本土と変わらないサービス、施設、観光地の美化等、行政、市民団体が協力して観光立県を維持している。

しかしながら、サンゴ礁・マングローブなどは沖縄県にとってかけがえのない重要な観光資源であるものの、環境の変化に対して敏感に影響を受けやすく、その衰退は観光客の客足にも影響しかねない。

観光客に魅力ある豊かで美しい海を維持するためには、陸から海にかけての総合的な環境保全が不可欠である。近年の異常気象の影響以外にも森林・マングローブ林の過剰な伐採、赤土の海への流出及び農業の拡大等、間接的だが確実に沿岸生態系全体に影響を及ぼす。沿岸生態系のバランスが崩れれば、沿岸住民の経済的基盤である漁獲量にも影響が及び、ひいては途上国の重要な収入源である観光資源も失われる恐れがある。

当センターでは、平成12年度に開催された島サミット（大洋州島サミット）のフォローとして平成14年度までの3年間に地理的・気候的な条件を活かし、地域別研修として「持続可能な観光開発（大洋州地域）」を実施した経験を持つ。

このコースでは大洋州の国々の観光産業と沿岸資源管理に裨益するよう、同じ課題をかかえる島嶼の一員として解決の糸口となるべく沖縄県の取り組みを紹介してきた。今度は、その経験を活かし、平成14年度に開催された日・カリコム諸国閣僚会議で要望のあった観光開発分野への協力として、カリブの島嶼国を対象とする新規コースを設立することとした。本報告書はカリブの国々に適合した研修コースを設立する前に、代表的な国へ調査団を派遣し、調査した結果をまとめたものである。

本報告書が、カリコム諸国の人々にとって環境を大事にしつつ観光業が発展する一歩になるよう役立ってほしいと願っている。

独立行政法人国際協力機構
沖 縄 国 際 セ ン タ ー
所 長 竹 内 喜 久 男

目 次

．調査団概要	
1．派遣の背景・目的	3
2．派遣国	3
3．団員構成	3
4．調査期間	3
5．調査日程	3
6．新設コース（案）概要	6
．調査結果	
1．全体概要	7
2．各国概要	8
(1) トリニダード・トバゴ	8
(2) バルバドス	11
(3) ガイアナ	15
(4) セントルシア	18
(5) ジャマイカ	21
(6) カリブ海諸国	23
3．訪問機関での聞取調査結果	24
．本研修コースへの団長総括と提言	
1．総括	32
2．研修にかかる提言	34
．資料（CD版のみ掲載）	
1．関係機関/訪問先面会者一覧	
2．調査団説明用ドラフト：Course Information (Draft)	
3．写真	

．調査団概要

1．派遣の背景・目的

近年、カリコム諸国と日本は国際協調に努めているところであるが、2000年11月にカリコム各国の閣僚を招いて「日・カリブ閣僚レベル会議」を開催した。その中で、カリコム諸国は主要産業である観光業に対し、重点分野の一つとして我が国に協力の要請があった。

カリコム諸国と類似した島嶼性の地理的並びに気候的条件を持ち、沖縄では過去3年間に同様の条件を持つ大洋州地域に対する研修コースを実施してきた経験から、カリコム諸国の状況に合致した研修コース内容を策定することを検討している。

本調査の目的は新規コースの立ち上げに際し、研修対象者、レベル、到達目標等の研修内容を確認するための調査に主眼をおき、

- (1) 観光開発分野の帰国研修員、JICA事務所及びカリコム諸国関連省庁・関連機関との協議・意見交換を通じて新規コース「持続可能な観光開発（カリコム地域）」研修導入にあたってのニーズ調査及び具体的なカリキュラム検討・協議を行うこと、
- (2) JICA他スキーム（協力隊）との連携の可能性を調査し、今後の当研修との効果的な協力体制を検討すること、を目的に調査団を派遣した。

2．派遣国

トリニダード・トバゴ、バルバドス、ガイアナ、セントルシア、ジャマイカ

3．団員構成

- (1) 小濱 哲（こはま てつ）：総括/観光開発
名桜大学観光産業学科 教授
- (2) 新垣 裕治（あらかき ゆうじ）：技術指導?エコツーリズム
名桜大学観光産業学科 助教授
- (3) 井上 明美（いのうえ あけみ）：研修計画
国際協力事業団 沖縄国際センター業務課 職員

4．調査期間

平成15年8月11日（月）～平成15年8月28日（木）
但し、小濱団長は平成15年8月11日（月）～平成15年8月24日（日）まで

5．調査日程 別表1のとおり

別表1 調査日程表

番号	月日	曜日	訪問機関/面会者等	宿泊地
0	8/11	月	沖縄 東京(羽田)/(成田)	成田(国内)
1	8/12	火	東京(成田) ニューヨーク(JFK) JL006(12:00-11:30)	ニューヨーク
2	8/13	水	ニューヨーク(JFK) ホートオブスペインAA2045(8:00-13:09) 16:00チャグアラマスリゾート周辺調査	ポートオブスペイン (トリニダード・トバゴ)
3	8/14	木	10:30在トリニダード・トバゴ日本大使館表敬/打ち合わせ 14:00観光産業開発会社(TIDCO)表敬/聞き調査 16:00マラカスベイリゾート訪問/現状調査	同上
4	8/15	金	ポートオブスペイン(セントルシア) ブリッジタウン LI308(7:00-8:05)/LI371(8:45-9:25) ・11:00カリブ観光機構(CTO)訪問/聞き調査 ・14:00観光及び国際運輸/聞き調査	ブリッジタウン (バルバドス)
5	8/16	土	・9:00 Beverly Worrell ,Boyce's Tour 参加(Wildlife Reserve, Harrison Cave, The Flower Forest, Welchman Gully:既存のエコツアー-現状調査)	同上
6	8/17	日	*NY、BLACKOUT(停電)の影響でフライトキャンセル、フライト変更 (小濱団長・新垣団員のみガイアナへ出発、井上団員8/18出発) ブリッジタウン ジョージタウンLI385(7:55-10:00) BW431(18:35-20:00)	ジョージタウン (ガイアナ)
7	8/18	月	・9:45カリコム事務局表敬/聞き調査 ・14:00観光産業商業省表敬 ・14:20ガイアナ観光局(GTA)/聞き調査 ・17:00外務大臣表敬 *(井上団員)ブリッジタウン(TT経由)ジョージタウンBW403(8:30-11:30))	同上
8	8/19	火	・ジョージタウン(バルバドス) セントルシア(SLU) ・LI386(10:30-12:35)/LI374(13:25-14:05) ・16:30カストリーズリゾート地域調査	カストリーズ (セントルシア)
9	8/20	水	・8:30森林局/聞き調査 ・14:00東カリブ諸国機構(OECS)事務局表敬/聞き調査	同上
10	8/21	木	・8:00国立公園整備状況&リゾートホテル施設現状調査(終日)	同上
11	8/22	金	・新垣・井上団員2名:10:00マングローブ保護地域調査 セントルシア(UVF) (モンテゴベイ) JM092(13:55-15:45) ・小濱団長:セントルシア(SLU) サンファン ニューヨーク(JFK) AA5431(8:37-10:47)/AA1416(12:15-16:01)	モンテゴベイ (ジャマイカ) (ニューヨーク)
12	8/23	土	団員2名:8:00モンテゴベイMarine Park Trust 表敬/海中調査(終日) (小濱団長:ニューヨーク(JFK) JL005(13:30---	モンテゴベイ (ジャマイカ) (機中)
13	8/24	日	・10:30 Dolphin Head Trust訪問 ・16:00 主要観光地(Dunn's River Falls)視察/現状調査 ---成田16:20))	モンテゴベイ (ジャマイカ) (なし)
14	8/25	月	・8:00 キングストンへ移動 ・14:30産業観光省/Jamaica Tourist Board訪問/合同聞き調査	キングストン (ジャマイカ)
15	8/26	火	・9:00 JICAジャマイカ事務所報告 ・9:30日本大使館報告 キングストン ニューヨーク(JFK) AA656(15:30-20:25)	ニューヨーク
16	8/27	水	ニューヨーク(JFK) (JL005 13:30---	機中
17	8/28	木	東京(成田) 16:20) **東京(羽田) 沖縄(井上団員)	**なし/***(成田)
18	8/29	金	***東京(羽田) 沖縄(新垣団員)	***なし

*、**井上団員、***新垣団員

(参考) カリブ共同体 Caribbean Community (CARICOM) : カリコムについて

< 設立の経緯・目的等 >

旧英領カリブ諸国においては、1960年代の独立の前から地域統合を目指した動きが見られ、1958年には西インド諸島連邦が創設された。独立後の1968年には域内貿易の自由化等を目的としたカリブ自由貿易連盟 (CARIFTA) が設立されたが、さらにこれを発展させ、経済統合、外交政策の調整、保健医療・教育等に関する機能的協力の促進を目的として、1973年7月、バルバドス、ガイアナ、ジャマイカ及びトリニダード・トバゴによりカリブ共同体 (カリコム) を設立するためのチャガラムス条約が署名され、右設立条約が同年8月1日に発効して、カリコムが正式に発足した。その後、1974年5月までに、アンティグア・バーブーダ、英領ホンジュラス (ベリーズ)、ドミニカ等8カ国・地域、1983年7月にバハマ、1995年7月にスリナムが正式加盟した。

カリコム加盟国・地域は (14カ国1地域)

カリコム加盟14カ国1地域 : アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ドミニカ、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネーヴィス、セントルシア、セントビンセント、スリナム、トリニダード・トバゴ、モンセラット (英領)

なお、バハマはカリコム単一市場・経済には参加していない

ハイチ** : 正式加盟には設立条約の批准が必要であるが、未完了。但し、域内では正式加盟国と同等の扱いを受けている。

外務省ホームページより抜粋

6. 新設コース(案) 概要

- (1) コース名(和) : 持続可能な観光開発(カリコム諸国)
- (2) コース名(英) : Sustainable Tourism Development for CARICOM Member Countries
- (3) 研修期間 : 2004年2月開始の1ヶ月程度
- (4) 定員 : 10名
- (5) 実施機関 : 名桜大学大学院観光環境教育研究領域
- (6) コース目的 : 本コースは、各国で観光促進、観光開発に携わる政府職員に対し、島嶼国における環境に優しい持続可能な観光開発について理解を深めることを目的とする。
- (7) 到達目標 :
 - 1) 自然環境を損なわない持続可能な観光開発のための手法を習得する
 - 2) 観光が地域に開発に与える影響を理解し、島嶼地域に特有な観光開発の手法を習得する
 - 3) 島嶼地域特有の観光用プロモーション/マーケティングのような手法を習得する
 - 4) ホスピタリティマネジメント(接客業務)及びその人材育成の重要性を学ぶ
 - 5) 自国に適応する持続可能な観光開発を企画(案)が作成できるようになる
- (8) 概要 :

講義、実習、見学等により構成。主な項目は日本における観光振興政策、島嶼観光政策、ホスピタリティマネジメント、環境保全、地域振興政策、プロモーション、マーケティング、西表エコツアー、カントリーレポートおよびアクションプランの発表等。
- (9) 資格要件 :
 - 1) 政府機関で観光振興/エコツーリズムの促進あるいは計画に従事する所属部署であること
 - 2) 大学卒業もしくは同等の知識経験を有する者
 - 4) 年齢40歳未満の者
- (10) 割当国
カリコム加盟国・地域は(14カ国1地域)前述のとおりだが、バハマ*(*カリコム単一市場・経済には参加せず、JICA協力対象外国)とモンセラット(英領:協力対象外国)を除く13カ国を当コースの割当国とする

(1) アンティグア・バーブーダ、(2) バルバドス、(3) ベリーズ、(4) ドミニカ、(5) グレナダ、(6) ガイアナ、(7) ハイチ**、(8) ジャマイカ、(9) セント・クリストファー・ネーヴィス、(10) セントルシア、(11) セントビンセント、(12) スリナム、(13) トリニダード・トバゴ

．調査結果

1．概要

(1) リゾートとして

カリコム諸国は、豊かな観光資源に恵まれている。例えば、各国の地質学的な成り立ちからみれば、火山島あるいは、隆起サンゴ礁等変化に富んでいる。各国共に熱帯雨林が発達し、動植物相は多様性に富んでいる。特に鳥類が豊富でバードウォッチングに適し、エコツアーまたはネイチャーツアーとしてバードウォッチングを取り入れている。年間を通して貿易風が卓越し、風下の西側では、比較的乾燥するために、街やリゾートが発達している。歴史的には、アメリカ合衆国と同じかそれよりも古い開発の歴史を持ち、元から居住していたカリビアン文化の上に、ヨーロッパの文化とアフリカの文化が混在している。乾季にあたる12月頃から4月頃がトップシーズンとなっており、北半球の海洋性リゾートの大部分が6月頃から9月頃にかけての夏型であることを考えると、他のリゾートとの競合が少なく、避寒地としての地位を確立している。

(2) 持続可能な観光開発に関して

持続可能な観光開発については、自然資源の持続性や社会資源の持続性の観点から各国共に積極的に取り組んでいる。この観光の一形態であるエコツーリズムにはついては、そのコンセプト、実施方法等に関して詳しく分析されており、実施計画にあたる計画書なども作成されている。特にCaribbean Tourism Organization (CTO) では、カリコム諸国全体のエコツーリズムのあり方について、詳細な報告書をまとめており、意識の高さが窺える。

しかし、エコツーリズムを実施した場合の地域振興への影響などはあまり考慮されていない。特に雇用促進や所得向上といった社会経済効果に関しては、分析が追いついていない印象を受けた。また、環境の保全といった場合には、自然環境の保全とともに、社会環境の維持に関しても考慮すべきであるが、これに関する分析が足りないと思われる。

エコツーリズムの現状としては、熱帯雨林の中でのハイキングやトレッキングが一般的であり、地域によっては、マウンテンバイクツアーや乗馬しながらトレッキング、四輪駆動車でのツアー、キャンプなどもある。これらのツアーを全てエコツアーとしている訳ではなく、ネイチャーツアーとしている場合もある。また、国によっては、故意にエコツーリズムとしていない場合もある。これは、エコツーリズムの意味解釈や他国との差別化を図るためである。

(3) ホスピタリティーについて

資源、施設ともに国際的リゾートとしての要件を満たしているが、ホスピタリティーの面では水準を下回ると判断せざるを得ない。各施設におけるサービスも標準化されておらず、働く人々の職業意識は高いとはいえない。

空港では、国際空港でありながら、航空券の発券からイミグレーションまでの手続きが遅く、どの航空カウンターでも長い列ができています。対応する係員の熱意や能力に問題があると思われる。宿泊施設では、ホテルマンとしての基本的な技術は身につけているものの、ルーム清掃に関しては信頼性がなく、アメニティグッズやギフトアウェイが揃っていません。隅々まで清掃が行きとどいていなかったりするケースが多々みられた。

国際的なリゾートとして知名度が高く、魅力的な地域であるにもかかわらず、それを支える人的な要素に最大の問題がある。

2. 各国概要

(1) トリニダード・トバゴ

トリニダード島の主なリゾートは風上の東海岸に多いが、利用のピークは乾季に当たり、降雨の心配は少ない。

西側は、ポートオブスペインからサンフェルナンドにかけて湾を形成し、停泊に適していることと、石油がベネズエラ側から採掘されることもあって、行政機能と工業機能などが集積する。電力は採掘されるガスを使ったガス発電であり、潤沢に供給される。また水も雨季の降雨を溜めることと、JICAの技術による海水の淡水化によって、十分に賄われている。

依然としてイギリスからの援助に頼る所が大きく、道路などインフラはイギリスの支援によっているが、最近ではアメリカからの援助も大きくなっている。

ホテルの部屋も、中にある備品が紛失あるいは壊されても、ホテルは責任を取らないと明記されているが、個別の金庫などはなく、フロントで管理する仕組みとなっている。

マリーナが発達しており、南カリブ海の主要な拠点を形成している。大型クルーザーからヨット、小型船やパワーボートなどがあり、多くの船が係留されている。また各種大会や競技会なども開催されている。

これに関連して、エンジンの整備や船舶のメンテナンス、造船業、サービスの提供など、マリーナビジネスが盛んで、技術者の養成やノウハウの蓄積などがみられる。

ホスピタリティーの面では、愛想がなくサービス業に対する基本的な考え方が欠如し、接客に対する訓練が不足している。

大型のクルーズ船が入港するが、降りる客は少なく、あまり経済的な効果も期待できない。

トリニダード・トバゴのエコツーリズム

トリニダード・トバゴの自然生態系は、他のカリブ諸国に比べ非常に多様性に富んでいる。その理由としては、トリニダード・トバゴが地理的に南米に近く、かつては南米と陸続きであったので、カリブと南米の両方の動植物が生息することに由来する。トリニダード・トバゴには、108種の哺乳類（コウモリが60種）、55種の爬虫類、617種の蝶類、420種の鳥類（300種以上は島内で繁殖）、25種の両生類が生息し、顕花植物については2300種（ラン類が700種）が記録されている。トリニダード・トバゴの特徴的な自然生態系としては、熱帯雨林、雲霧林、淡水及び塩水の湿地帯やオリノコ川からもたらされる栄養分豊富な水の影響で非常に豊富な海洋生態系が形成されていることである（All Trinidad and Tobago, p.23）。トリニダード島では、オリノコ川からもたらされる栄養分豊富な水のせいで海水の透明度は悪いが、オリノコ川の影響の少ないトバゴ島にはカリブ地域でも屈指の素晴らしい砂浜とサンゴ礁があり、海洋性の観光地としても有名である。このように、トリニダード・トバゴは陸と海ともにエコツーリズム資源として素晴らしい資源を持った地域である。

トリニダード・トバゴのエコツアー事業者としては、6事業者を上げる事ができる（表1）。トリニダード島には5事業者があり、トバゴ島には1事業者がある。トリニダード・トバゴの人口規模としては130万人程度なので、人口規模から考えたエコツアー事業者の数としては少ないと言える。

表 1

事業者	所在地	概要
Caribbean Discovery tours	トリニダード	Eco / Adventureツアー会社、ハイキング、カヤッキング、野生生物調査、映画や写真など撮る
Paria Springs Eco Community	トリニダード	環境配慮型のツアー業者、バードウォッチング、ハイキング、マウンテンバイクサイクリング、自然史ツアーを雨林
Island Experiences	トリニダード	旅行手配会社、エコツアーや文化ツアーの手配、旅行サービスを行う
Nanan Bird Sanctuary Tours	トリニダード	Caroni Swampでの自然ツアーとバードウォッチングツアーを専門に行う
Wildways Caribbean Adventure Travel	トリニダード	環境に配慮した、ハイキング、カヤッキング、サイクリングを行う
David Rooks Nature Tours	トバゴ	環境に配慮してツアーを行う、バードウォッチング、ハイキングマウンテンバイクサイクリング、野生生物調査

上記のエコツアー事業者は、T&T Incoming Tour Operator's' Association Membership Directory のリストから抜粋した。ツアー概要については、リストの記述とHPを検索できた事業者についてはHPの内容も概要に盛り込んでいる。

エコツアーの内容としては、バードウォッチングとハイキングが主である（表2）。これ以外には、カヤッキングやシュノーケリング、滝壺での泳ぎと海での泳ぎ（海水浴）などもある。日本或いは沖縄であまり行われていないエコツアーの形態としては、サイクリングやケイビング（洞窟探検）などもある。以上のように自然体験型のツアーが殆どであるが、中には集落の訪問やヒンズー寺院やモスクなど歴史・文化的なツアーも盛り込まれているプログラムも多く、多様な要素を含んだツアーが行われている。ツアーとしては、自然的要素だけでなく文化的な要素も含んだツアーが行われ、ツアーの成熟度としては高いと判断される。

エコツアーサイトとしては、トリニダード島ではCaroni Bird Sanctuaryが最も多くなっている。次にトリニダード島で2番目に高いEl Tucuhe山、バードウォッチングセンターと研究施設を兼ねている Asa Wright Nature Center と続いている。以下、人工的な施設として園芸農場（Horticulture Farm）とスペイン・フランス風の集落であるArimaが訪問地として上がっているが、殆どは自然景観や動植物の生態や生態系を堪能できる場所になっている（表3）。Caroni Bird Sanctuaryは首都のポートオブスペインから近距離にあるマングローブ湿地で、4,860ヘクタールの広がりをもつ広大な国立公園の一つである。公園内をカヌーに乗りながらマングローブ林内を飛び交う野鳥の観察をするのが一般的である。都市から近く、大変自然度が高く、カヌーに乗りながら自然観察が出来る点はエコツアーとしては、手軽でありながら、大変程度の良い自然体験ができ、また、アドベンチャー的要素を含むカヌー体験もできる、大変人気のあるツアーであることが想像できる。近年、日本ではカヌーやカヤックを使ったエコツアーに大変人気集中している。このような体験型のツアーは、バードウォッチングやマングローブ観察などの自然観察に興味がなくも十分に楽しめるツアーの形態である。

トリニダード・トバゴは、トリニダード島が地理的にベネズエラに近く、生物相的に南米大陸の影響を強く受け、また、オリノコ川から流れ出す茶色の栄養豊富な河川水の影響でサンゴ礁の発達はかなり制限されている等、大陸的な要素を多く含んでいる。一方、トバゴ島は南米大陸から遠くなり、島周辺の海水の透明度は高く、サンゴ礁の発達が良い等の島嶼的な要素を多く含んでい

表2 トリニダード・トバゴのエコツアー概要と料金

事業者	ツアー	ツアー概要	料金(US)
Caribbean Discovery Tours Trinida	Northern Range Exploration	バードウォッチング、ハイキング、泳ぎ(滝壺)、集落	75
	Paria Beach and Waterfall Hike	バードウォッチング、ハイキング、泳ぎ(海)、集落訪	75
	Northern Range Forest Adventure	バードウォッチング、ハイキング、泳ぎ(海)、集落訪	75
	Nariva Swamp Kayak Exploration	バードウォッチング、キャンピング、キリスト・イスラム・ヒンドゥー教の文化体験	100
	El Tucuche Mountain Climb	バードウォッチング、ハイキング、動植物観察、(海)、古都訪問	100
	North East Coast Tour overnight Grand Rivier (and Turtle watch-sesonal)	バードウォッチング、ウミガメ産卵観察、ハイキング、泳ぎ(滝壺、川)、集落訪問	170
	Central Trinidad Tour	バードウォッチング、ヒンドゥー寺院、モスク、バザールの見学	75
	Down the Islands Boat Tour	周辺の島々を散策、泳ぎ(海)、歴史文化	100
	Adventure Packages	バードウォッチング、ハイキング、泳ぎ(海・滝壺)、5日か10日	-
	Carnival Packages	カーニバル、雨林、サンゴ礁、滝、集落訪問、5日	-
	Tobago/Trinidad Packages	トバゴとトリニダードの自然体験、2日	-
Paria Springs Eco Trinidad	Morne Bleu(Hiking Tour)	ハイキング、バードウォッチング、雲霧林観察	55
	Madamas road waterfalls (Hiking Tour)	ハイキング、バードウォッチング、蝶観察、泳ぎ(滝)	55
	El Cerro Del Aripo (Hiking Tour)	ハイキング、バードウォッチング、雲霧林観察、泳ぎ(滝壺)	65
	Tamana Cave (Hiking Tour)	ハイキング、ケイビング、コウモリ観察	65
	Cumaca Cave (Hiking Tour)	ハイキング、ケイビング、コウモリ観察他	85
	Paria/Arima/Blanchisseuse Road (Birding Tour)	バードウォッチング	65
	Caroni Wetlands (Birding Tour)	バードウォッチング	65
	Agriculture Reseach Station/Aripo Savanna (Birding Tour)	バードウォッチング	50
	Nariva Swamp (Birding Tour)	バードウォッチング	65
	Arena Forest and Dam (Birding Tour)	バードウォッチング	50
	Icacos (Birding tour)	バードウォッチング	65
	West Coast Wetlands (Birding Tour)	バードウォッチング	65
	Asa Wright Nature Center and Caroni Bird Sanctuary(birding Tour)	バードウォッチング	70
	North Coast Drive (Birding Tour)	バードウォッチング、泳ぎ(海)	60
	Madamas road and Sobo Waterfalls (Biking Tour)	サイクリング、泳ぎ(滝壺)	50
	Chaguaramas (Biking Tour)	サイクリング	45
	Las Lapas to Lopinot (Biking Tour)	サイクリング	55
	Brasso Seco Old Road (Biking Tour)	サイクリング	50
	A day of fun with rainforests, waterfalls, and kayaking	ハイキング、カヤッキング、動植物観察、雨林観察、泳ぎ(滝壺)	65
	Turtle watching	ウミガメ産卵観察	55
	Red Howler Monkey	ハイキング、サル観察	65
Natural History and Horticulture	バードウォッチング、ハイキング、植物園	50	
Horticulture and Caroni Bird Sanctuary	バードウォッチング	50	
Wildways Caribbean Adventure Travel Trinidad	Trinidad Trek and Tour (8days)	ハイキング、雨林観察、動植物観察、泳ぎ(海・川)、ウミガメ産卵観察	-
	Trinidad and Tobago 11 day Odyssey (11days)	カヤッキング、雨林観察、集落訪問、ウミガメ産卵観	-
	River Deep, Mountain High (5days)	サイクリング、ハイキング、泳ぎ(川)	-
	Trinidad and Tobago: A Birder's Paradise(10days)	カヤッキング、ハイキング、バードウォッチング、雨林観察	-
	Trinidad and Tobago:Natuer's Child (8days)	カヤッキング、ハイキング、バードウォッチング	-
	East Coast Explorer (5days)	サイクリング、カヤッキング、ハイキング、集落訪問	-
	Tobago Coast and Mountain (5days)	ハイキング、カヤッキング、シュノーケリング、バードウォッチング	-
	Trinidad: Iron Man Trekker (7days)	ハイキング、キャンピング	-
	Rainforest and Ocean (5days)	サイクリング、ハイキング、集落訪問	-
	Tobago Ocean Adventure (6days)	カヤッキング、キャンピング、集落訪問	-
	Cycle Tobago: U-design your Odyssey	サイクリング、ハイキング、シュノーケリング、ダイビング、集落訪問	-
	Guyana and T & T Adventure 'Nature Gone Wild'(16days)	ハイキング、カヤッキング、シュノーケリング、バードウォッチング、滝等	-
	David Rooks Nature Tours Tobago	Nature Sancutary and Sea Bird Breeding Island	バードウォッチング、集落訪問
Visit the Rainforest		ハイキング、雨林観察、動植物観察	45
Visit Hillsborough Dam		バードウォッチング、ワニ観察	35
Bird watching trips to Buccoo swamp and Grafton Bird Sanctuary		バードウォッチング	35
One day general Birdwatching at various locations		バードウォッチング	55

ツアーの概要と料金については、それぞれの事業者のHPより調べる。料金の「-」は、料金の記載が無かったツアーである。

表3 トリニダード・トバゴのツアーサイト概要と利用回数

地域	場 所	概 要	回数
トリニダード	Caroni Bird Sanctuary	マングローブ湿地、鳥類保護区	5
	El Tucuche	トリニダードでの2番目に高い山	4
	Asa Wright Nature Center	バードウォッチングセンターと研究施設	3
	Blanchisseuse Bay	湾になった海岸	3
	Marianne River	川	3
	Nariva Swamp National Park	淡水湿地	3
	Sobo Waterfalls		3
	Arima	古都（スペイン・フランス風）、北部山脈の玄関	2
	Chagaramas National Park	山地の国立公園	2
	Horticulture Farm,	園芸農場	2
	Madamas Waterfalls		2
	Maracas Beach	海水浴場	2
	Paria beach	海水浴場	2
	Agriculture Reseach Station		1
	Arena Reservoir and Dam	野生生物保護区	1
	Aripo Savanna	バードウォッチングの場所	1
	Brasso Seco	集落、ハイキング、バードウォッチングの始点	1
	Bush Bush Wildlife Anctuary	野生生物保護区、湿地	1
	Central Savannah lowlands		1
	Cumaca Cave	洞窟	1
	El Cerro Del Aripo(山)	高山	1
	Fullarton Swamp	湿地	1
	Hindu temples, Mosques, and craft workshops		1
	La Tinta Bay		1
	Las Lapas to Lopinot		1
	Lion House	インド風建築物	1
	Matura Beach	ウミガメが産卵する海岸	1
	Morne Bleu		1
Old French Creole Estate House		1	
Oropuche Swamp	マングローブ干潟、鳥類保護区	1	
Roussillac Swamp		1	
St Joseph	古都、トリニダードの最初の首都	1	
Tamana Cave		1	
トバゴ	Tobago's Main Ridge Forest Reserve	雨林、最も古い野生生物保護区	1
	Little Tobago	ゴクラクチョウが生息する離れ島	1
	King's Bay		1
	Hillsborough Dam	南西地区への通過点	1
	Fort King George at Scarborough	イギリスの古城、眺めがいい	1
	Cocoa Plantation		1
	Buccoo Swamp		1
	Grafton Caledonia Wildlife Sanctuary	野生生物保護区、バードウォッチングの場所	1

ツアーサイトの概要については、それぞれの事業者のHP及び観光ガイドブックで調べた。サイトの利用回数については、表2のそれぞれにツアーについて、ツアーサイトの利用回数を合計したものである。

る。大陸的な要素と島嶼的な要素の両方を持つ、カリコム地域ではトリニダード・トバゴだけであり、エコツアー目的地として多様な要素を提供できる素晴らしい地域である。

(2) バルバドス

カリブ海で最も安全で観光地化が進んだ地域といわれる。著名人である、ロッドスチュアート、ロ

ストチルドレン、スピルバーグの別荘がある他、クリントン前大統領も滞在するといわれる島である。毎週金曜日にはロンドン、パリからコンコルドの発着もある。

しかし、街は埃っぽく道路管理も不十分であり、滞在の快適性はほとんど考慮されていない。

これは植民地の考え方、つまり、自分の敷地内のみが、顧客にとって完璧であれば、その他の地域に対しては関心を持たないという考え方である。

したがって西海岸に展開する大型の高級リゾートは、すべてクローズドシステムとなっており、私有地内への出入りは厳密なセキュリティーチェックが行われる。

バルバドスのエコツーリズム

バルバドス観光省は、自然体験型観光をエコツーリズム(Ecotourism)として捉えるのではなく、Nature Based Tourism(自然志向型観光)として捉えている。理由としては、エコツーリズムの定義をバルバドスの自然体験型観光に厳密に適用できない事や、観光省としては、エコツーリズムの定義自体がまだ曖昧なところがあるとして、現状としては、自然体験型観光をエコツーリズムでなくNature Based Tourism(自然志向型観光)として扱っている。また、カリコム諸国の中には、エコツーリズムの資源(主に自然資源を示す)が豊富に存在する国々が多く、バルバドス近隣の国々、例えばガイアナやセントルシアは非常に自然資源に恵まれた国々である。バルバドスとしては、エコツーリズム観光地としてこれらの国々と競争するよりも、Nature Based Tourism(自然志向型観光)として独自の方向性を打ち出し、他国との住み分けを考えているようである。しかし、これらは、地域からの雇用や地域の伝統文化の発展、環境の保全等であるので、十分にエコツーリズムの理念の沿った考え方である。

バルバドス観光省ホームページにエコツアーのページがあり、エコツアー事業者として、9事業者(表1)がリンクされている。これらのうち、6事業者のツアープログラムについてはインターネットで調べることができた(表2)。ツアープログラムとしては、32のプログラムがある。陸で行われるツアー概要としては、ハイキング、植物園訪問、鍾乳洞探検や渓谷植物群落の観察等である。鍾乳洞探検や渓谷植物群落の観察は、石灰岩の島であるバルバドスの地質的な特徴をよく表している。鍾乳洞では、Harrison's Caveが非常に有名であり、バルバドスで最も観光化された観光施設でもある。渓谷植物群落とは、石灰岩台地が落ち込んで出来た渓谷(英語ではGully)にコケやシダ、草本や木本など、石灰岩独特の植物群落が形成されている。この石灰岩独特の地形と植物群落の中をハイキングしながら楽しむツアーが行われている。海で行われるツアーとしては、シュノーケルをしながらの海洋生物観察が主である。また、珍しいツアーとしては、ウミガメ餌付けやウミガメと泳ぐツアーがある。

表1 バルバドスのエコツアー事業者と概要

事業者	概要
Adventureland 4x4 Off-Road Island Tours	自然体験型(ハイキング、雨林観察、ウミガメ観察)ツアーを提供
Atlantis Submarine	潜水船で海中、海底の案内をする
Boyce's Tours	バルバドスで最大のバス事業者(40年の歴史)、観光バス等
Destination Management Services	旅行手配会社
Foster and Ince Cruise Services	旅行手配会社
Highland Adventure Center	野外活動を主な活動とする事業者
Island Safari	ジープで島の自然景観見学へ案内する
Ocan Adventures	海の体験型観光(キャッキング、シュノーケル、ウミガメ観察など)
St. James Travel and Tours	旅行手配会社

事業者については、バルバドス観光局(Barbados Tourism Authority)の公式HPで検索する。事業者の概要については、それぞれの事業者のHPを参考にした。

表2 バルバドスのエコツアー概要と料金

事業者	ツアー	概要	料金(US)
Boyce's Tours A division of Boyce's Garage and Taxi Service	Barbados Flora and Fauna	ハイキング、植物園、動物園	40
	Underground Marvels	電動トラムに乗りながらの鍾乳洞探検	30
	Floral Fantasy	ハイキング、植物園、渓谷植物群落	40
	Natural Wonders	ハイキング、電動トラムで鍾乳洞探検、植物園	40
	Return to Eden	ハイキング、渓谷植物群落、植物園	45
	The Best of Barbados	ハイキング、電動トラムで鍾乳洞探検、植物園、歴史的建物	45
	Cannons, Crypts and Caverns	電動トラムで鍾乳洞探検、歴史的建物	40
	Nortern Exposure	ピクニック、ハイキング、雨林、歴史的建物	38
	The Eco-Heritage Tour	電動トラムで鍾乳洞探検、歴史的建物	40
	Flowers, Forts and Fireplaces	ハイキング、植物園、歴史的建物	40
	East Winds	ハイキング、歴史的建物、海岸で泳ぐ	38
	Southern Sojourn	歴史的建物、集落訪問	38
	Of Pirates and Plantations	歴史的建物	40
Island Safari	Adventure Safari	眺望絶景	60(42.5)
	Discovery Safari	トレッキング、海岸、眺望絶景	40(35)
	Land and Sea Safari	眺望絶景、シュノーケリング	95(50)
	Beach Discovery Safari	眺望絶景、歴史的建物、海岸で休息	135(95)
	Tailor Made Safari Just for you!	参加者要望のツアープログラム	130
Adventureland 4x4 Off-Road Island Tours	Los Barbados Private Adventure	参加者要望のツアープログラム	500
	The Congaline Adventure	ハイキング、渓谷植物群落、歴史的建物、海岸	62.5(45)
	The Turtle and Shipwreck Adventure	シュノーケル、ウミガメ餌付け、熱帯魚餌付け	60(45)
Highland Adventure Center	Horseback Riding	乗馬、歴史的建物、海岸、集落訪問	-
	Mountain Bike Riding	サイクリング、眺望絶景	-
	Hiking	ハイキング、動植物観察、集落訪問	-
Ocan Adventures	Kayak and Turtle Encounter	カヤッキング、シュノーケルリング、ウミガメ餌付け、	-
	Snorkeling Tours	シュノーケル、海洋生物観察、ウミガメと泳ぐ	-
	Snuba	スヌーパー、海洋生物観察	-
	Hike and Cave Adventure	ハイキング、渓谷植物群落、ケイビング	-
Atlantis Submarine	Atlantis Adventure	潜水艇による海底観察	-
	Atlantis By Day	潜水艇による海底観察	-
	Atlantis By Night	潜水艇による夜の海底観察	-
	Rino Rider Water Safari	ボート操縦、シュノーケル、難破船、熱帯魚観察	80(40)
St. James Travel and Tours	-	-	-
Foster and Ince Cruise Services	-	-	-
Destination Management Services	-	-	-

ツアーの概要と料金については、それぞれの事業者のHPより調べる。料金の「-」は、料金の記載が無かったツアーである。

ツアーサイトとしては、植物園や歴史的建物など人工的な場所や物が多い(表3)。Harrison's Caveでは、鍾乳洞の内部を電動トラムに乗りながら見学することができ大変便利ではあるが、トラムを通すために鍾乳洞の壁をかなり削り込み、または、恐らくは、場所によってはトラムを通すための通路を掘り込んだ所もあると思われる、元々の鍾乳洞の面影は所々にしか残っていない。バルバドス野生生物保護区(Barbados Wildlife Reserve)は、元々はサルの保護区として設立された場所である。敷地はフェンスで巡らされ、敷地内には、カメや鹿、ヤギ、マングース、オウム、ハトなど動物が飼育されている。保護区(Reserve)というよりは、動物園といった感じのする施設である。バルバドスの自然景観として、渓谷(Gully)の植物群落は石灰岩独特の地形であり、自然観察を楽しむ場所としては適していると思われるが、所々植物園的な整備がなされているのは大変残念である。

エコツーリズムの観光地として考えた場合、特に陸上の自然生態系においてバルバドスは他のカリコム諸国に比べ自然度において程度のいい自然があるとは言い難い。しかし、鍾乳洞や渓谷は石灰岩台地の特徴であり、バルバドスの最大の特徴であり、これらの自然景観を出来るだけそのまま

の形で見せる工夫をする必要があると思われる。

表3 バルバドスのツアーサイト概要と利用回数

場所	概要	回数
Gun Hill	かつての見晴台、歴史的建築物	7
Harrison's Cave	電動とラムに乗りながら見学できる鍾乳洞	5
Flower Forest	植物園	4
Andromeda Gardens	植物園	3
Bathsheba	海水浴をすると若返ると言われる海岸、眺望絶景	3
Highland	丘・風景	3
St. John's Church	カトリック教会、歴史的建物	3
Sunbury Plantation House	大邸宅、歴史的建物	3
Welchman Hall Gully	石灰岩台地が落ち込んで出来た渓谷の植物群落	3
Bridgetown	バルバドスの首都、歴史的建物がある	2
Chubb Bay		2
Codrington College	神学大学、歴史的建物	2
Quaint Villages		2
Sam Lord's Castle	大邸宅、歴史的建物	2
St. Nicholas Abbey	大邸宅、歴史的建物	2
Barbados Wildlife Reserve	元々はサルの保護区、フェンスで仕切られカメラなどの様々の動物が見られる	1
Barclays Park	独立記念の公園、海岸、眺望絶景	1
Blackman's Gully	石灰岩台地が落ち込んで出来た渓谷の植物群落	1
Cattlewash (The East Coast)	海岸・風景	1
Chalky Mount (Pottery Makers)	山	1
Cotton Tower		1
Easy Hall		1
Edge Cliff		1
Farely Hill National Park	歴史的建築物と眺望絶景の公園	1
Foster Hall		1
Grenade Hall Forest and Signal Station	歴史的建築物とトレッキングコース	1
Homeward Bound		1
Joe's River Forest		1
Molasses Bridges		1
Morgan Lewis Mill	サトウキビを搾る風車、歴史的建物	1
Mt. Hillaby		1
Oistins	漁村、夜の市場（屋台）	1
Ragged Point Lighthouse	島の最東端の灯台、眺望絶景	1
River Bay	河口風景	1
Sherbourne		1
The Bath Trail		1
The Emancipation Statue	奴隷解放を記念する銅像	1
Three coastlines		1
Turtle cove and shipwrecks of Carlisle Bay		1

ツアーサイトの概要については、それぞれの事業者のHP及び観光ガイドブックで調べた。サイトの利用回数については、表2のそれぞれにツアーについて、ツアーサイトの利用回数を合計したものである。

一方、海は海水の透明度が大変よく、島は裾礁で縁取られ、ビーチはサンゴ礁性の純白の砂で覆われ海岸線が何キロにも渡り続き、海洋性の観光地としては申し分ない要素を備えている。バルバドスのエコツアーとしては、規模としては小さいが、石灰岩独特の地形とそこに繁茂する石灰岩独特の植生、これらに依存する動物等、バルバドスの自然をなるべくそのままに体験、あるいは見せる工夫が必要であると思われる。また、これらと海でのエコツーリズム的な活動を上手く組み合わせることにより、バルバドスの魅力を十分に発揮でき、カリコム諸国の中でバルバドス独特のエコツーリズム観光地としての地位を確保することが出来ると思う。規模が小さなエコツアーと言うこ

とは、ツアー参加者の観点から考えると時間的に短く、費用的に安くて済むので、気軽に参加できる良さがある。

(3) ガイアナ

首都ジョージタウンは、オランダやイギリスの技術によって干拓された地域にあるため、平均海面より低い地域となっている。街には多くの水路がひかれ、管理されている。そのため、一方では水害なども多く、各家は2階建て以上で、場合によっては下駄履き住宅も多くみられる。

コンクリート建築は少なく、木造家屋が多くみられ、後背地の森林資源の豊かさを伺わせる。

暑さをしのぐためと思われるような白い建物も多いが、他の地域と同じようにエアコンの入っている建物は少なく、ほとんどの家が窓を開けている。エアコンは入っていたとしても、かなりの旧式で、冷房効率も悪い。

街は埃っぽくゴミが散乱し、官庁街でさえ、不衛生な感じがする。

ガイアナのエコツーリズム

ガイアナのエコツアー事業者としては、27事業者を上げる事ができる(表1)。事業者の特徴としては、大手の旅行手配事業者とエコリゾート等の予算規模の大きいと思われる事業者が多いことである。また、ホテルやロッジ等(Dedanawa RanchやShell Beach Turtle Nesting Camp等)の宿泊施設もエコツアーの拠点になっている。NPO団体としては、Iwokrama International Center for

表1 ガイアナのエコツアー事業者と概要

事業者	概要
Earth Tour Limited	-
Evergreen Adventures	航空業、ホテル業等の関連会社で構成、ガイアナの自然を観光資源としている
Hinterland Tours Inc.	-
Nature Tours	-
Outdoor Expedition	-
Rainforest Tours	-
Roraima Tours	ガイアナ国内の旅行手配(Roraima Airwaysの子会社)
Shell Beach Adventure Tours	-
Swimtours	-
Torong Guyana Co. Ltd	-
Whitewater Adventure Tours	-
Wilderness Exploreres	旅行手配、主に自然観光、ガイアナと周辺地域でツアー手配を行う
Wonderland Tours	ガイアナ国内の旅行手配
Arrowpoint Nature Resort	エコリゾート
Baganara Island Resort	エコリゾート(Evergreen Adventuresの系列)
Emerald Tower	エコリゾート
Karanambo Resort	エコリゾート(Evergreen Adventuresの系列)
Lu Lu's Wilderness Resort	エコリゾート
Rock View Lodge	エコリゾート(Evergreen Adventuresの系列)
Shankland Rainforest Resort	エコリゾート
Splashmin's Fun Park and Resort	エコリゾート
Timberhead Rain Forest Resort	エコリゾート
Timberhead Resort	エコリゾート(Evergreen Adventuresの系列)
Dedanawa Ranch	エコツアーの中継宿泊地(Runpununi River沿い、最奥地)
Karanambu Ranch	エコツアーの中継宿泊地(Rupununi River沿い)
Shell Beach Turtle Nesting Camp	エコツアーの中継宿泊地(Shell Beach沿い)
Iwokrama International Center for Rainforest Conservation and Development	ガイアナと国際的機関より作られた非営利の調査開発機関、熱帯雨林保全を生態学的、社会的、経済的持続性の観点から考える。熱帯雨林でのツアーも行う。キャノピートレイルがある。

事業者の概要については、それぞれの事業者のHPを参照した。

Rainforest Conservation and Developmentがある。このNPO団体は、ガイアナと国際機関の協力で設立され、ガイアナの雨林保全の為に生態学的、社会的及び経済学的な調査研究を行い、保全活動の普及啓発の為にエコツアーも行っている。大手の旅行手配事業者は、飛行機やホテルの予約等の従来通りの旅行手配も行いながらエコツアーの手配も行っている場合が多い。エコリゾートは旅行手配事業者と系列になっている場合がおおく、リゾートに宿泊しながらリゾート周辺の熱帯雨林内でのハイキングやトレッキング、バードウォッチング等のエコツアーを行う場合が多いようである。また、川沿いのリゾート（殆どのリゾートは川沿い）では、ジェットスキーやウィンドサーフィン等の従来通りの観光オプションも準備されている。

上述のように、ガイアナのエコツアー事業者としては27事業者を上げる事ができる。これらの事業者は様々なツアーの提供を行っている。すべての事業者のエコツアーについて述べることはできないが、数事業者のツアーを上げて、ガイアナでのエコツアーの特徴を紹介する（表2）。ガイアナのエコツアーの特徴は、ガイアナの自然の雄大さにある。地形的なアトラクションとしては、非常に雄大な滝が多いことである。ガイアナとは、多くの川のある地(Land of many waters)と言う意味であり、その名の示す通り多くの川が域内を貫流している。川が多いので滝も多く、主要な滝だけで21を数えることができる。この中には、ナイアガラ滝の5倍の落差があり、世界最高の落差を誇るKaieteurの滝も含まれている。雄大な滝が多いので、これら滝を飛行機で周遊して見学するツアーもある。ガイアナの自然の最大の特徴は、ガイアナの国土の8割以上を占める広大な原生の熱帯雨林である。これまで、6100種以上の草本、1000種の木本、450種の鳥類、120種の両生類、180種の哺乳類が記録されている。

広大な地域に川や滝、熱帯雨林等の様々な自然遺産が分布し、それぞれの自然遺産は規模が大きく見学に時間がかかり、また、それぞれの遺産間の移動に時間もかかる場合が多く、期間的に長くなり、費用的にも高額になってしまうツアープログラムが多い。Wilderness Explorers社の提供するツアーでは、最長で22日間のツアー(The Photographer's Tour)がある。このツアーは料金については示されていないが、この次に期間的に長い16日間のツアー(Kaieteur, Iwokrama and Surama Exploration)は、2,915USドルであることから想像するとかなりの高額になることは想像に難くない。

ガイアナの自然遺産は、雄大な川や滝、熱帯雨林、これらを生息場所とする野生生物等、世界に類を見ないほどの素晴らしい自然が揃っている。規模的には雄大であり、また、それぞれの自然が大変独特で複雑で、短時間に理解されるものではない。エコツアーの目的地としては、世界有数の地域であることには間違いない。しかし、地域住民の参加という観点から考えた場合には、規模の雄大さや自然が大変独特で複雑であることは、地域住民の参加を阻む要因になりかねない。規模の雄大さは、それぞれの目的地間の移動を可能にする飛行機や四輪駆動車、船舶等が必要であり、また、これら輸送手段の使用を可能にする空港や道路、港湾等の施設整備が必要である。期間的に長期に及ぶので、宿泊施設等の整備も必要となり、予算規模としてかなり大きくなる。自然が大変独特で複雑であることは、それらを理解することにかかなりの能力を必要とすることも意味し、人材育成にかかなりの費用と時間を要すると考えられる。以上のことから考えると、普通の地域住民が生業としてエコツアーに参加するのはかなり制限される。このことは、一部の経済力のある人達（必ずしも地域住民ではない）にエコツアーが牛耳られることを意味している。しかし、このことは、エコツアーへ参入する人が少ないので、資源管理の観点から考えた場合は有利に働く可能性を秘めている。行政の役割としては、上述の条件で個人では参加が制限されてしまうエコツーリズム業界へ

表2 ギアナのエコツアー概要と料金

地域	場 所	概 要	料金(US)	
Wonderland Tours	Kaieteur and Orinduik	Kaieteur滝(世界で最も高い滝)とOrinduik滝の見学、飛行機で移動、日帰りツアー	-	
	Santa Mission	ボートに乗り雨林の観察、バードウォッチング、民芸品購入	-	
	Essequibo and Mazaruni	急流でボートに乗る、トレッキング、滝壺で泳ぐ	-	
	Georgetown Tour	首都のジョウジタウンの見学、オランダゴシック建築、植物園・動物園訪問	-	
	Berbice Tour	多くの集落を訪問する	-	
	Overnight to Lethem	ボートに乗り雨林の観察、動植物観察、バードウォッチング	-	
	Kaieteur Overland	雨林でのキャンプ、多くの滝を訪問	-	
Wilderness Exploreres	Surama Village Iteneraries	Surama Sampler(2Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど	74
		Suama and Burro Burro(2Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Buro Buro Riverでカワウソ観察	96
		Surama Mountain and Burro Burro(2Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Surama山の登山	96
		Surama Mountain and River Experience(3Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Buro Buro Riverでカワウソ観察、Surama山への登山	126
		Surama and Carahaa Landing Adventure(3Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Caraha Landing Campでの宿泊、Buro Buro Riverでカワウソ観察	155
		Surama and Tiger Pond(3Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Buro Buro Riverでカワウソ観察、Surama山への登山、Tiger Pondでのカワウソ観察	147
		Surama Nature Tour(4Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Caraha Landing Campでの宿泊、Buro Buro Riverでカワウソ観察	190
		Surama and Carahaa Landing Experience(4Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Caraha Landing Campでの宿泊、Buro Buro Riverでカワウソ観察	199
		Burro Burro River Adventure(4Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Caraha Landing Campでの宿泊、Buro Buro Riverでカワウソ観察	215
	Kanuku Explorer(13Days)	Georgetownの見学、Runpununi Riverの川下り、集落訪問、熱帯雨林トレッキング	2706	
	Rainforest and Waterfalls Experiences(8Days)	Georgetownの見学、エコリゾートや農場(Ranch)の訪問、熱帯雨林トレッキング、滝見学	1399	
	Rainforest and Rupununi Experiences(10Days)	エコリゾートや農場(Ranch)の訪問、熱帯雨林トレッキング	1681	
	Kaieteur Falls Overland(5Days)	キャンプをしながら滝の周遊、熱帯雨林トレッキング	750	
	The Wai Wai Expedition(14Days)	Wai Wai郡(ギアナ最奥地)への旅行、集落訪問、伝統文化体験(狩など)、熱帯雨林観察、川下り	-	
	The Photographer's Tour(22Days)	ギアナの建築様式、自然や野生生物の写真を撮るツアー		
	Rupununi Explorer(14Days)	Rupununi Savannahをボートで移動しながら、集落訪問や野生生物の観察を行う	2123	
	Georgetown and Rainforest Mini Break(5Days)	Georgetown見学と熱帯雨林の見学	562	
	In Search of the Harpy Eagle(8Days)	絶滅危惧種であるHarpy Eagle(世界最大のワシ)を観察するツアー、バードウォッチング、Georgetown見学	-	
	Guyana Wildlife Adventure(10Days)	ウミガメの観察とカワウソの観察、集落訪問、湖での釣り	2880	
	Amerindian and Wildlife Adventure(9Days)	Surama周辺でのトレッキング、集落訪問、ナイトトレッキングなど、Caraha Landing Campでの宿泊、Buro Buro Riverでカワウソ観察	1506	
	Jagure and Burro Burro Adventure(11Days)	Caraha Landing Campでの宿泊、Buro Buro Riverでカワウソ観察、ヒョウの観察	1879	
	Savannah and Rainforest Adventure(14Days)	エコリゾートや農場(Ranch)の訪問、熱帯雨林トレッキング、滝見学	2917	
	Harpy Eagle Explorer(8Days)	絶滅危惧種であるHarpy Eagle(世界最大のワシ)を観察するツアー、バードウォッチング、Georgetown見学	-	
Kaieteur, Iwokrama and Surama Exploration(16Days)	Georgetown見学、Kaieteurの滝見学、Surama周辺でトレッキング、熱帯雨林見学	2915		
Evergreen Adventures	Day Tour	Baganara Island Resort--Kaieteur and Baganara Island Tour	エコリゾート周辺でのトレッキングと滝見学	165
		Kaieteur/Orinduik Tour	Kaieteur滝とOrinduik滝の見学	195
		Ogle/Kaieteur Falls Tour	Ogle滝とKaieteur滝の見学	135
		Baganara Island Resort--Garden City Tour	Georgetown観光、動物園と植物園の訪問	25
		Baganara Island Resort--River Expedition Tour	ボート遊覧、熱帯雨林トレッキング	60
	Package Tours	Baganara Island Tour	ボート遊覧、史跡見学、カヤッキング	50
		Amazon Jungle Expedition(4Days)	エコリゾート宿泊、遊覧飛行で熱帯雨林の観察、バルパドスからのツアー	674
		Runpununi Savannah Adventure(4Days)	エコリゾート宿泊、ボート遊覧バルパドスからのツアー	929
		Taste the Adventure(4Days)	エコリゾート宿泊、滝見学などのツアーに参加	470
		Amazonian Experience(5Days)	エコリゾート宿泊、滝見学、ボート遊覧	1293
		Fun and Nature(6Days)	Georgetown観光、エコリゾート宿泊、滝見学、史跡訪問	1963
		Experience Guyana--Safari Style(14Days)	Georgetown観光、エコリゾート宿泊、滝見学、史跡訪問、野生生物観察	2600

ツアーの概要と料金については、それぞれの事業者のHPより調べる。料金の「-」は、料金の記載が無かったツアーである。

地域住民を参加させ、地域に経済的還元がもたらされる仕組みを構築し、エコツーリズムを地域が環境と調和しながら発展するツールとして十分に活用して行くことである。

(4) セントルシア

火山島の風景らしく、男性的な印象の島である。

ホスピタリティーは他国と大差なく、タクシーのドライバーが運転中に携帯電話で話をしたり、チャーターしているにもかかわらず、食事に帰ってしまったり、便乗者を乗せてきたり、職業意識が乏しいと感じられる。

大型のクルーズ船が寄港できる施設も環境もあるが、観光客の受入施設やサービスは不十分で、経済的な効果が見込めるほどではない。

安全の確保は比較的保たれているようであったが、衛生面では改善すべき点が多く見られる。

セントルシアのエコツーリズム

セントルシアのエコツアー事業者としては、11事業者を上げることができる(表1)。事業者の特徴としては、公の機関である農林庁(Forest and Land Department)やNPO的なセントルシアナショナルトラスト(St. Lucia National Trust)やカリブ自然資源研究所(Caribbean Natural Resources Institute)及びセントルシアヘリテージツーリズムプログラム(St. Lucia Heritage Tourism Programme)がエコツアーを行っていることである。これら事業者は、「保全」、「教育」、「資源管理」及び「地域への経済効果」等、エコツーリズムのキーワードとして上がってくるようなことを理念として事業を行っている。

表1 セントルシアのエコツアー事業者と概要

事業者	概要
Forst and Lands Departmant	自然環境を活用しながらの保全を目指す、バードウォッチング、ハイキング、ガイド(インタープリテーション)
Caribbean Natural Resources Institute	カリブ地域の参加型資源管理を支援す独立の技術調査機関、調査、技術支援、教育、ガイド
St. Lucia Heritage Tourism Programme	環境と伝統文化の保全をはかりながらNature/Heritage Tourismを実践、地域への経済効果を志向
St. Lucia National Trust	環境と伝統文化の保全を目的とする、教育と保全活動に力を入れる、島内観光、バードウォッチング、ハイキング、ガイド(インタープリテーション)
ATV Adventures	4輪オートバイ体験、島の自然を観光する
Barefoot Holidays	客の要望に応じツアーをアレンジ
C & M Touring	4輪駆動車で島の自然を案内する
Gros Piton Trail	ハイキング、カヤッキング、集落訪問、カルチャーツアー
Internatinal Riding Stables	乗馬体験、ピクニック、海水浴
Morne Coubaril	乗馬体験、農家訪問、ハイキング
Trims National Riding	乗馬体験、ピクニック、海水浴

事業者の概要については、それぞれの事業者のHPの内容をまとめた。

農林庁(Forest and Land Department)の提供しているツアーは17ツアーあり、内容としては、バードウォッチングと雨林の散策及び雨林内の野生生物の観察をツアーの目的とした、自然観察的な要素を含むツアーが殆どである(表2)。農林庁の活動の中には、森林管理や流域管理、野生生物管理等多くの活動があり、その中に環境教育とエコツーリズム(Environmental Education and Eco-tourism)の取り組みも含まれている。環境教育では、持続可能な自然資源の利用をする為に一般市民の環境問題に対する意識を高めることを目的としている。具体的には、学校教育制度の中での環境

表2 セントルシアのエコツアーの概要と料金

地域	場 所	概 要	料金(US)	
Forest and Lands Department	Union Nature Trail	雨林観察とバードウォッチング	-	
	Medical Herb Garden	薬効のあるハーブ類が植えたある	-	
	Wildlife Collection	在来種と移入種がいる動物園	-	
	Interpretive Centre	絶滅危惧種、植生、森林に関する情報提供	-	
	The Enbas Saut Falls Trail	Central Rainforest Reserveの中にあるトレイル、雨林と雲霧林、野生生物が多く見れる	-	
	Des Carties Rainforest	雨林、野生生物が多く見れる	-	
	Edmund Forest Reserve	雨林、野生生物、多くの着生植物、大きな板根が見れる	-	
	Barre De L'isle Trail	雨林、眺望絶景	-	
	Forestierre Rainforest Trail	Castriesに近い、成熟した雨林、大きな板根が見れる	-	
	Millet Bird Sanctuary Trail	多くの野鳥が見れる、雨林、急な坂道のトレイル	-	
	Piton Flore Reseve	バードウォッチング	40	
	Grand Anes	バードウォッチング	40	
	Edmund Forest Reserve	バードウォッチング	40	
	Mill Bird Sanctuary	バードウォッチング	40	
	Bois d'Orange Swamp	バードウォッチング	40	
	Eau Piquant Pond	バードウォッチング	40	
Boriel's Pond	バードウォッチング	40		
St. Lucia National Trust	Nature and Heritage Tours	Pigeon Island National Landmark	歴史的建物 (Fort Rodney)、乾燥熱帯林、眺望絶景	-
		Fregate Island Nature Reserve	バードウォッチング、マングローブ、集落訪問、カヤッキング	-
		Morne Fortune Historic Area	歴史的建物、眺望絶景	-
		Maria Islands Nature Reserve	固有種のトカゲとヘビの保護区、バードウォッチング、海水浴	-
		Maria Islands Experience	集落訪問、自然景観、バードウォッチング、海水浴、シュノーケル	-
		Heritage Sunday	夏限定のツアー、歌と踊り、カーニバル、歴史的建物、集落訪問	-
		Southern Safari	歴史文化、工芸品見学、集落訪問、歴史的建物、島の名所を多く回る	-
		Hardy Point/Cacutus Valley Walking Trek	ハイキング、固有種のサボテン観察、山脈眺望、Pigeon Island 訪問、海水浴	-
Anse La Liberte' Camping	キャンプ、ハイキング	-		
Mankot Mangrove	バードウォッチング、マングローブ観察	-		
Caribbean Natural Resources Institute	Mankot Mangrove	バードウォッチング、マングローブ観察	-	
St. Lucia Heritage Tourism Programme	Anes La Fish Fry	伝統文化、芸能、海産物屋台 (夜)、金曜日夜	-	
	Balenbouche Estate	歴史的建物 (精糖工場)、歴史文化、植物園、	-	
	Castries Heritage Tours	カストリーズ市内観光、歴史的建物	-	
	Debarras Tourtle Watuch	ウミガメ産卵観察、地域がウミガメ保護	-	
	Eastern Nature Trail	バードウォッチング、ハイキング、カヌー等、サボテン観察	-	
	Folk Research Center	伝統文化博物館、歴史的建物、植物園	-	
	Fond D'Or Nature Reseve and Historical Park	歴史的建物 (サウキピプランテーション)、ハイキング、マングローブ、ウミガメ産卵等	-	
	Fond Dour Estate	集落訪問、自然景観、バードウォッチング、ハイキング、	-	
	Fond Latisab Creole Park	クレオール伝統文化見学、伝統料理試食	-	
	Gros Piton Nature Trail	ハイキング、バードウォッチング、歴史的建物、眺望絶景、雨林、	-	
	Latille Falls	ハイキング、滝、泳ぐ (滝壺)、植物園、	-	
	Mamiku Garderns	カリブでの最も歴史のある植物園、ハイキング	-	
	Piton Flore Reseve	ハイキング、熱帯雨林観察、眺望絶景	-	
Toraille Waterfall	ハイキング、滝、泳ぐ (滝壺)、植物園、眺望絶景	-		
ATV Adventures	ATV Adventures	4輪オフロードバイク体験、自然景観眺望、動植物観察、海水浴	130/1人/1日	
Barefoot Holidays	Around the Island	歴史的建物、眺望絶景、滝、植物園、海水浴、	60	
	Around the Island to Balenbouche Estate	歴史的建物 (精糖工場等)、眺望絶景、	60	
	Jeep Island Adventure	植物園、ハイキング、ハーブ園、眺望絶景、歴史的建物	72	
	Jeep Safari Explore	ハイキング、雨林観察、滝、海水浴	80	
	Jungle Bike Adventure	サイクリング、歴史的建物、雨林観察、海水浴	98	
	Land and Sea Safari	バスで島内観光、ボート遊覧、プランテーション、雨林、漁村、滝、海水浴	78	
	The Gros Piton National Trail	ハイキング、バードウォッチング、雨林観察	-	
	Waterfall Bike Hike	サイクリング、滝、バナナとココアプランテーション、農家訪問	50	
Half Day Tour	A Touch of Safari	バナナプランテーション、雨林観察、滝、火口	48	
	Fond D'Or - Where Nature Meet History	歴史的建物、自然景観、野生生物観察	45	
	Fond Latisab Creole Park	クレオール伝統文化見学、伝統料理試食	40	
	Half Day Rainforest Walk	ハイキング、バードウォッチング、雨林観察	42	
	Historical Gardens of Madam De Micoud	ハイキング、歴史的建物、植物園、雨林観察	48	
	Soufriere Island Delight	植物園、滝、火口、眺望絶景	55	
	Soufriere Island Magic	ハイキング、バナナとココアプランテーション、火口、滝、	50	
	Trail Trippers Adventure	ジープで内陸部観光、集落訪問、泳ぐ (滝壺)、雨林観察	50	
	Whale Watching - Dolphin Spotting	鯨類、イルカ類の観察	68	
C & M Touring	Terrain Roamer Safari Adventure(Level 1)	4輪駆動車で移動、ハイキング、漁村訪問、滝見学	50(30)	
	Exploring Northeast of St. Lucia Jeep(Level 2)	4輪駆動車で移動、眺望絶景、歴史的建物、滝見学	60	
	Terrain Safari Adventure(Level 2)	4輪駆動車で移動、眺望絶景、農家訪問	85(40)	
	Terrin Roamer Safari Adventure(Level 2)	4輪駆動車で移動、ハイキング、漁村訪問、滝見学、海水浴	85(45)	
	Exploring West Coast of St. Lucia With Jeep(Level 3)	4輪駆動車で移動、ハイキング、町中観光、眺望絶景、漁村訪問、滝見学	95(45)	

ツアーの概要と料金については、それぞれの事業者のHPより調べる。料金の「-」は、料金の記載が無かったツアーである。

表3 セントルシアのツアーサイト概要と利用回数

場 所	概 要	回数
Anes La Raye	歴史的建物（製糖工場）伝統文化、芸能、海産物屋台（金曜夜）、滝等	9
Sulphur Spring	車で乗り入れのできる火口	6
Soufriere	ハイキング、バナナとココアプランテーション	5
Babonneau	島の中央部の農村、セントルシアの農村の雰囲気味わえる	4
Marigot Bay	ヤシの木に取り囲まれてビーチ、湾部にはマングローブが茂る	4
Balenbouche Estate	19世紀のプランテーションハウスがある、ゲストハウスにもなっている	3
Fond D'Or Nature Reseve and Historical Park	歴史的建物（サトウキビプランテーション）、ハイキング、マングローブ、ウミガメ産卵等	3
Historical Mammiku Garden	植物園、ハイキング、ハーブ園、眺望絶景、歴史的建物	3
Morne Fortune Historic Area	歴史的建物、眺望絶景	3
Pigeon Island National Landmark	歴史的建物（Fort Rodney）、乾燥熱帯林、眺望絶景	3
Piton Flore Reseve	ハイキング、熱帯雨林観察、眺望絶景	3
Praslin Island	Praslin湾にある離れ小島、船大工で有名	3
Torille Waterfalls	植物園の中にある滝、周辺にはトレイルがありハイキングができる	3
Diamond Falls	France's King Louis XVIに作られた浴場がある、ミネラル分の多い滝	2
Edmund Forest Reserve	バードウォッチング、野生生物、雨林、多くの着生植物、大きな板根が見れる	2
Fond Doux Estate	集落訪問、自然景観、バードウォッチング、ハイキング、	2
Fond Latisab Creole Park	クレオール伝統文化見学、伝統料理試食	2
Fort Rodney	18世紀にイギリス人たの建てた要塞	2
Fregate Island Nature Reserve	バードウォッチング、マングローブ、カヤッキング	2
Grand Anes	バードウォッチング、ウミガメ産卵観察、地域がウミガメ保護	2
Gros Piton Nature Trail	ハイキング、バードウォッチング、歴史的建物、眺望絶景、雨林、	2
Maria Islands Nature Reserve	バードウォッチング、固有種のトカゲとヘビの保護区、自然景観、海水浴	2
Mill Bird Sanctuary	バードウォッチング、多くの野鳥が見れる、雨林、急な坂道のトレイル	2
Choiseul Craft Center	手工芸品を買う事ができる	2
Amerindian pottery at the Carib Lookout		1
Ancient Amerindian Potholes and river		1
Anse La Liberte'	キャンプ場、ハイキングトレイルがある、施設がよく揃っている	1
Atlantic Coast Hilke		1
Barre De L'isle Trail	雨林、眺望絶景	1
Bois d'Orange Swamp	バードウォッチング	1
Boriel's Pond	バードウォッチング	1
Cactus Valley	固有種のサボテンが自生する	1
Canaries	セントルシアの首都、歴史的建物が多い	1
Des Carties Rainforest	雨林、野生生物が多く見れる	1
Diamond Botanical Gardens	熱帯植物園、園内には滝もある、よく整備されている	1
Donkey Beach	蜂蜜色の砂浜	1
Eau Piquant Pond	バードウォッチング	1
Folk Research Center	伝統文化博物館、歴史的建物、植物園	1
Forestierre Rainforest Trail	Castriesに近い、成熟した雨林、大きな板根が見れる	1
Hardy Point	ハイキング、固有種のサボテン観察、山脈眺望	1
Latille Falls		1
Medical Herb Garden	薬効のあるハーブ類が植えてある	1
Old Military Brracks at Morne Furtune	18-19世紀の軍の建物、周辺には大学がある	1
Sociere Mountain		1
The Enbas Saut Falls Trail	Central Rainforest Reserveの中にあるトレイル、雨林と雲霧林、野生生物が多く見れる	1
Union Nature Trail	雨林観察とバードウォッチング	1
Vieux Fort	セントルシアの第二の都市、商業の中心地	1
Vigie Lighthouse	埋立地に作られた灯台、カストリーズの近く	1
Wildlife Collection	在来種と移入種がいる、農林水産省の管理	1

ツアーサイトの概要については、それぞれの事業者のHP及び観光ガイドブックで調べた。サイトの利用回数については、表2のそれぞれにツアーについて、ツアーサイトの利用回数を合計したものである。

教育の実践、社会全体に対しては環境意識を高めるための方法の開発と実施を行っている。一方、エコツーリズムでは、持続可能な自然環境の利用を通じて収入を上げながら自然環境保全の実践していくことを目的としている。方法としては、ネイチャートレイルやハイキングトレイル、エコロッ

ジ、キャンプ場などの自然体験活動場所の開発と管理を行っている（森林庁のHP）。

セントルシアナショナルトラスト(St. Lucia National Trust)の提供しているツアーは、農林庁同様に自然体験を多く取り入れているが、歴史文化的要素も多く含まれている。マングローブ湿地でカヤックに乗りながらバードウォッチングした後に近くの集落を訪ねて、地域の伝統文化に触れるツアーや、或いは、ある集落で工芸品を見た後に、サトウキビプランテーション時代の歴史的建築物を見学する等の歴史文化的色彩の濃いツアー等、様々なツアープログラムが用意されている。セントルシアヘリテージツーリズムプログラムでもセントルシアナショナルトラストと類似したツアーが行われている。特徴的な事としては、ウミガメの産卵の観察が行われていることである。 HALF DAY ツアー(Half Day Tour)では、ホエールウォッチングやイルカウォッチングのツアーもある。

ツアーで主に訪れられている場所は、歴史文化的な場所や植物園、ハーブ園などの人工的な場所の割合が高いようで、バードウォッチングや雨林、マングローブの観察など、自然的要素の多い場所の訪問割合としてはやや低いようである（表3）。エコツーリズム的な観点から考えた場合、自然的要素の多い場所の割合を多くすることが期待される。

セントルシアのエコツーリズムの特徴としては、公の機関として農林庁やNPO的な団体が、エコツアーの開発から実施、エコツアーサイトの管理、環境教育等をそれぞれの団体が行っていることである。本来、エコツーリズムとは利益追求型の観光ではなく、地域の自然環境や生活、歴史文化の保全を目的とする地域誘導型の観光形態である。このような観点から考えると、セントルシアには、利益追求型では無く非営利の団体がエコツーリズムに大きく関与しているので、エコツーリズムの現状としては良い状態であると予想され、今後より理想に近いエコツーリズムの実現を目指して更なる発展が期待される。

(5) ジャマイカ

ジャマイカのエコツーリズム

ジャマイカのエコツアー事業者としては、9事業者を上げることができる（表1）。事業者には、公の機関として、Port Antonio Information OfficeとGreen Grotto Cave and Attractionがある。また、エコリゾートとして3事業者（Hotel Moking Bird Hill, Sornrise Beach Retreat, Mi Yard Milestone Cottage）及び自然体験型のツアーを提供している4事業者である。

表1 ジャマイカのエコツアー事業者と概要

事業者	概要
Hotel Moking Bird Hill(Port Antonio)	エコリゾート
Port Antonio Information Office(Port Antonio)	Port Antonio地区の ツアー情報提供、公的な機関
Chukka Cove(Ocho Rios)	自然体験型のツアー、車両(バス等)、バー、土産屋を経営する
Sornrise Beach Retreat(Ocho Rios,Kingston)	エコリゾート
Green Grotto Caves and Attractions (Discover Bay)	公的機関(Department Urban Development Corporation)により運営されている
Chukka Blue(Montego Bay)	自然体験型のツアー、車両、バー、土産屋を経営する
Jones Hall Adventure Tour(Montego Bay)	自然体験型のツアー
River Raft Ltd(Montego Bay)	竹筏ラフティング
Mi Yard Milestone Cottages(Negril)	エコリゾート

事業者の概要については、それぞれの事業者のHPの内容をまとめた。

これら事業者が提供しているツアーを示しているのが表2である。ツアーの種類としては、ハイキングやバードウォッチング等の従来の自然体験や竹筏ラフティングやタイヤのチューブを浮き代

表2 セントルシアのエコツアーの概要と料金

事業者	ツアー	概要
Hotel Moking Bird Hill (Port Antonio)	Lower Valley	ハイキング
	Darley Trail	ハイキング
	Stanton Trail	ハイキング
	Plantation Trails	ハイキング
	Bird Watching Trails	ハイキング
	Middle Valley	ハイキング
	Mooretwon Trails and Falls	ハイキング
	Nanny Town	ハイキング
	Upper Valley	ハイキング
	White River Taril	ハイキング
	Guava River Trail	ハイキング
	Watch Hill	ハイキング
	Bird Watching	バードウォッチング
Port Antonio Information Office(Port Antonio)	Rio Grande Adventure	ハイキング、滝、竹筏ラフティング、乗馬、眺望絶景(山・川・海)、ジャマイカの食事と音楽
	Explore Portland	ハイキング、滝、竹筏ラフティング、乗馬、眺望絶景(山・川・海)、コーヒープランテーション、ジャマイカの食事と音楽
	Hiking in Paradise	ハイキング、滝、眺望絶景(山・川・海)、雨林散策、ジャマイカの食事と音楽
	Romantic Escape	ハイキング、滝、竹筏ラフティング、乗馬、眺望絶景(山・川・海)、クルーズ、ジャマイカの食事と音楽
	Heart and Soul Wedding	ハイキング、滝、竹筏ラフティング、乗馬、眺望絶景(山・川・海)、結婚式、ジャマイカの食事と音楽
	Birdwatching and Butterfly Adventure	ハイキング、眺望絶景(山・川・海)、蝶と鳥の観察、ジャマイカの食事と音楽
	Eco-Dive and Snorkel Safari	ナイトダイビング、シュノーケリング、ジャマイカの食事と音楽
	Ultimate Fishing Expedition	ボートフッシング、ジャマイカの食事と音楽
	Hike and Heal Retreat	ハーブ風呂とマッサージ、ハイキング、ジャマイカの食事と音楽
	Backcountry Journey	ハーブ風呂とマッサージ、薬草を習う、ハイキング、ジャマイカの食事と音楽
	Moroons of the Rio Grande Valley	ハーブ風呂とマッサージ、ハイキング、集落訪問、ジャマイカの食事と音楽
	Family Adventure	ハイキング、滝、シュノーケリング、コーヒープランテーション、眺望絶景(山・川・海)、ジャマイカの食事と音楽
Chukka Cove(Ocho Rios)	Horseback Beach Ride	乗馬、乗馬しながら海に入る、海岸地形、歴史的建物(製糖工場)
	Heritage Tour	歴史観光、ハイキング、植物園
	Jeep Safari	ジープでの自然観察、雨林、眺望絶景、集落訪問等
	Mountain to Sea Bike Adventure	サイクリング、眺望絶景、海水浴
	Jeep Safari and River Walk	ジープでの自然観察、ハイキング、雨林、植物園、眺望絶景、集落(コーヒー農園)訪問等
	Hiking to Dounn's River	ハイキング、雨林、動植物、滝登り
	River Tourbing Safari	タイヤチューブにのり川を下る、自然景観を堪能
Sornrise Beach Retreat (Ocho Rios, Kingston)	Hoseback Riding	乗馬、海岸、歴史的建物
	Boat and Fishing Trips	釣り、海岸、歴史的建物
	Nature Tours to Hidden Jungle Waterfalls	雨林、海岸、歴史的建物
	River Water Therapy Experience	泳ぎ(滝、川)、ハイキング、ロッククライミング
	Greencastle Estate Farm	ラン園、パパヤ農園、午後のお茶
	Blue Mountain Down Hill Bicycle Tour	サイクリング
Green Grotto Caves and Attractions(Discover Bay)	Green Grotto Caves Tour	ケイビング、コロンプスの隠れ家、対戦中の武器庫、ラム貯蔵ば所として使われる
Chukka Blue(Montego Bay)	Jungle River Tobing	タイヤチューブを浮きとし川を下る、自然景観を堪能
	Houseback Ride and Swim Tour	乗馬、乗馬しながら海に入る、自然景観観察(雨林)、マングローブ観察、歴史的建物(製糖工場)、
	Jeep Safari	4輪駆動車で雨林を案内、滝見学、泳ぎ(川)、歴史的建物見学
Jones Hall Adventure Tour(Montego Bay)	Jones Hall Adventure Tour	ハイキング、熱帯果物試食、草花の説明、集落訪問等
River Raft Ltd(Montego Bay)	Rafting on the Martha Brae	竹筏でのラフティング、雨林景観
Mi Yard Milestone Cottages(Negril)	Anancy Fun Park	
	Negril Lighthouse	
	Rhodes Hall Plantation	
	Country Western Riding Stable	

ツアー概要については、それぞれの事業者のHPより調べる。

わりにしてのラフティング、Dunn's Riverでの滝上がり、乗馬しながらの自然観察（乗馬しながらの海水浴もある）、ケイビング等のアドベンチャー的自然体験、歴史的建築物（製糖工場うろの建物等）見学や集落訪問、ジャマイカの食事と音楽（Port Antonio Information Officeの紹介するツアー）等の歴史文化的内容のツアーもあり、内容的には多様な要素を含んでいる。

自然体験型ツアーの中で、竹筏ラフティングとタイヤチューブを浮き代わりにしてのラフティング及びDunn's Riverでの滝上がりはジャマイカの特徴的なツアーである。また、ツアープログラムに乗馬が多く取り入れているのもジャマイカの特徴的である。竹筏ラフティングとDunn's Riverでの滝上がりは大変ユニークで、恐らくはジャマイカ以外では経験しにくい体験であると思われる。竹筏ラフティングの竹筏は、移入種ではあるがジャマイカ全土に広く分布する大型の竹を材料としている。この竹はジャマイカの自然生態系へ悪影響を与える一要因として問題になっていて、竹筏ラフティングは移入種で厄介者の竹を上手く利用した点でも面白いツアーである。また、竹を上手く利用する方法としては、JICAがジャマイカ西部(Negril地区)にあるドルフィンヘッド山の環境保全と地域開発に取り組むNGO(Dolphin Head Trust)へ竹工藝指導官として青年海外協力隊を派遣しており、竹製品開発（販売工芸品、家具や建材等）による地域住民の収入改善が期待されている。また、Dolphin Head Trustには、村落開発普及員も青年海外協力隊として派遣され、Dolphin Head Trustと共にドルフィンヘッド地域でのエコツーリズムの確立を目指し活動している。青年海外協力隊員受入機関NGOとしては、ジャマイカ北西部(Montego Bay地区)にMontego Bay Marine Parkがある。この団体は、モンテゴ湾の海洋資源の回復と保全、環境教育や技術支援や海域環境の解説を通じ地域住民の経済的利益を最大限に高めることを目的とし設立されている。将来的には、湾の東部に広がるマングローブ域内でカヌーを使ってのマングローブ観察をエコツアーのメニューとして展開したいと考えている。

ジャマイカのエコツーリズムの現状としては、ジャマイカの人口規模(255万人)や観光客数(1276500人、2001年統計)から考えた場合に、エコツアー事業者数はまだまだ不十分な状態であると思われる。また、エコツアーサイトについては、国の大きさから考えると、まだ資源発掘が不十分な状態であるとおもわれる。これから、バードウォッチング、その他ジャマイカ独特の野生生物観察の為にトレイルの整備および様々な歴史文化遺産を発掘してエコツアープログラムの中に盛り込まれることが期待される。環境教育や環境保全に関しては、上述のNGO団体の活躍を期待したい。

(6) カリブ海諸国

ヨーロッパ各国やアメリカは、カリブ海諸国への支援を続けているが、少数民族であるカリビアン人の生活や文化に対しては、あまり心配りを感じない。

空港で待たされている際、お年寄りや体の不自由な人を優先するという発想はなかった。バルバドスの空港でもトリニダード・トバゴの空港でも、こういった人々に対するケアは全くなかった。タクシーは、どの国でも同じようにホスピタリティーが欠如している。タクシー内に地図がないこと、基本的な地名や場所を知らないこと、運転マナーが悪いことなど、いくつかの点を指摘できる。領収書なども携帯していないこともあり、ビジネスとしての認識が薄いと感じられた。

飛行機の機内でも、機内誌や安全のしおりなどが、各座席にあるわけではなく、またあったとしても、古いあるいは傷みが激しい。

道路標識は不完全で、観光ポイントまで観光客を誘導するというにはほど遠い。

3. 訪問機関での聞き取り調査結果

主な訪問機関の聞き取り結果は以下のとおり。

トリニダード・トバゴ(8月14日)

<TIDCO(Tourism and Industrial Development Company of Trinidad & Tobago Limited)> 訪問

エコツーリズムに関しては、事前に渡していた質問(エコツーリズムの現状、エコツアーの種類、エコツアー業者の数など)に対し十分な資料を準備して頂き答えて頂いた。TIDCOは1999年にパンフレット(Trinidad and Tobago Eco-Adventure)を出版している。この中で、トリニダード・トバゴの多様な自然が紹介されている。トリニダード・トバゴには、430種類以上の鳥類と、620種類の蝶々、2300種類の花木、100種類の哺乳類、70種類の爬虫類が生息している。島のかなりの部分は、人手の加わっていない熱帯雨林で覆われている。トバゴ島にはサンゴ礁がありスキューバダイビングも楽しむ事ができる。エコツーリズムの資源としてはすばらしい状況である。トリニダード・トバゴで行われているエコツアーとしては、ソフトアドベンチャー、バードウォッチング、教育的生態観光(Educational Ecology Tour)、地域体験(Community Experiences)、自然公園訪問(National Park Visits)、自然散策(Nature trails)、ダイビング、キャンプ等の自然体験活動(Nature Based Activity)である。トリニダード・トバゴでは、豊かな自然資源を活用し、地域の振興を図りながら、地域の自然と文化を保全できる持続可能な新たな観光のニッチ(Niche)の産業としてエコツーリズムを位置づけて推進している。エコツーリズムを推進する制度としては、自然公園制度の確立、生態的環境的維持に関するプロジェクトに対する支援、環境管理局と連携(共同)した行動等がある。

バルバドス(8月15日)

<CTO(Caribbean Tourism Organization)> 訪問

CTOとしては、持続可能な開発(Sustainable Development)に関してかなり積極的であった。CTOはCaribbean Tourism Associationと Caribbean Tourism Research & Development Centerの合併により、1989年に設立されている。CTOの目的としては、CTO会員の国々の持続可能な観光開発への協力を行っていくことである。この中でエコツーリズムも捉えて行きたいとのことであるが、単にエコツーリズムではなく、持続可能な観光開発の一つの観光形態としてエコツーリズムを捉えて行きたいと考えている。ゆえに、エコツーリズム以外にも、カルチャーツリズムやヘリテイジーツリズム、グリーンツーリズム、ブルーツリズム等のオルタナティブな観光も興味の対象になっている。

今回の研修カリキュラムについての要望として、観光現場でのグリーンポリシーや風力や太陽光を活用したグリーンエネルギーについての項目を盛り込んで欲しいとの要望が出た。これは、現在バルバドスも含め、グリーンエネルギーにはかなり力を入れていることによる。今回の研修にかなり期待しているとのコメントを頂いた。

<バルバドス観光省(Barubados Ministry of Tourism)> 訪問

バルバドス経済の中に於ける観光収入はかなり大きな額である。1999年の外貨収入の約70%が観光によるものである。故に、バルバドス観光省では、バルバドスにおける観光振興はかなり重要なことであると認識している。また、観光は労働集約型産業であるので、地域の失業者対策としてもかなり期待できる。

エコツーリズムに関しては、バルバドスはエコツーリズムではなく自然志向型観光(Nature Based Tourism)として位置づけている。理由としては、バルバドスの自然体験型観光にエコツーリズムの定義を厳密に適用するのは難しいということの見解とエコツーリズムの定義自体がまだ曖昧なところがあるので、現状としてはエコツーリズムでなく自然志向型観光として捉えているとのことである。また、カリコム諸国の中には、エコツーリズムの資源(主に自然資源を示す)が多く、バルバドス近隣の国々、例えばガイアナのように非常に自然資源に恵まれた国々がある。バルバドスとしては、エコツーリズム観光地としてこれらの国々と競争するよりも、自然志向型観光として独自の方向性を持っていこうと考えている。しかし、今後の計画では、地域からの雇用、地域の伝統文化の発展、環境の保全等で、これらを実行に移す予定である。

ガイアナ(8月18日)

<域内貿易経済統合(Regional Trade and Economic Integration)>訪問

今回の研修に対してかなり好意的であった。今回の研修の対象者の人選についてどのような基準で選べばいいのかの質問を受けた。

今回の研修に対する要望としては、今回の研修内容がカリコム諸国の要望を反映したものであって欲しいとの要望を受ける。ガイアナに関しては、エコツアー(或は、エコツーリズム)または、持続可能な観光開発を指導できる指導者の育成が今回の研修でできればとの要望があった。

<Mr. Willet Hamilton(Permanent Secretary)とMr. Donald Sinclair(Director, GTA)との面会>

両氏も今回の研修についてはかなり好意的であった。Donald氏はガイアナ大学でエコツーリズムの講義を行っているとの事である。エコツーリズムの講義では、Introduction of Ecotourism, Operation Management, Marketing of Ecotourism, Sustainable Tourismなどを行っているとの事である。彼によれば、地域のエコツアー事業者としては、Wilderness Tourを上げる事ができるとのことである。この事業者の経営者はオーストラリア人で、現在はかれのパートナーであった現地人が事業を行っているとの説明を受けた。印象としては、外国人がエコツアーの事業を行っているとの印象を受けた。この事業形態はエコツーリズムの観点からはかなり問題である。

<Foreign Trade and International Cooperationの大臣と面会>

Mr. Hon Clement J. Rohee(Minister of Foreign Trade and International Cooperation of Guyana)との面会

大臣(Mr. Hon Clement J. Rohee)は、特に今回の研修内容のことについて話はしていない。大臣からは、沖縄の地理的な位置や気候的な特徴などについての質問があった。大臣からこの研修に参加をしていきたいとのコメントを頂いた。

セントルシア(8月20日)

<森林省(Ministry of Forestry)>訪問

森林省では、1970年頃からエコツーリズムに取り組んでいる。最初の段階は、森林を使ってのリラクゼーションから始めている。この頃から観光客にも紹介されるようになり、観光客の要望を満たすようにいろいろな事が模索されてきている。現在ではグリーンツーリズムやヘリティジツーリズムにも力を入れている。また、インフラ(例えば、ピクニック用のテーブルや新しいトレッキング

グコースなど)も整備中である。人材育成については、学校や地域の集落などでも行っている。学校では、生物多様性の項目を授業の中に取り入れ、野外実習も行っている。地域の人々をこれらツーリズムに参加させる為に、地域でのシンポジウムや講習会などを行っている。1988年頃からは、エコツーリズムの為にトレーニングコースも始めている。トレーニングコースには、自然解説的な要素だけではなく観光客への接し方についての項目(ホスピタリティー)も入れている。現在提供している活動内容としては、キャンピングやネイチャートレイルの案内、バードウォッチング、エコロッジ管理などがある。

今回の研修に要望する事としては、環境収容力の基準に関する事やインターネット等を使っのマーケティング、様々なエコツアー商品の開発、また、人材を育成できる人材の育成等の要望があった。

応募者の資格については、観光関係の政府機関になってしまうと森林省からは人材を派遣しにくい。また、40歳以下になってしまうと、ある程度の経験がある有望な人材を派遣することができないので考慮して欲しいとの要望があった。

<OECS(Organization of Eastern Caribbean States)> 訪問

現在、OECSで考えていることは、観光目的地の多様化方針(Multi Destination Concept)である。これは、それぞれの国単位で考えるのではなく、東カリブ地域として全体として魅力を高め、観光客を地域内で循環させることを意味している。沖縄も東カリブ諸国と同様に多くの島嶼から出来ているので、観光客を地域内で循環させる事に関してなんらかの事例を示せるよう期待している。

環境保全(Environmental Conservation)の講義の詳細について分からないと、今回の研修に適した人材を推薦する事が出来ないで、出来るだけ早く内容を明らかにして欲しいとの要望があった。今回提供されている、廃棄物処理の項目については大変興味があるので非常に期待しているとのコメントを頂く。

研修へ推薦する人材について、環境保全や持続可能な観光としてエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズムを考えるのであれば、観光関連の政府機関だけでなく、例えば森林省や水産省、或いは農林省からの人材も入れる必要があるのではないかと意見があった。

続いて、現地調査(視察含む)結果を述べる。

トリニダード・トバゴ(8月13日~14日)

<チャグラマス(Chaguaramas)>

ポートオブスペインから西へ海岸沿いに8kmほど行くとチャグラマスへ到着する。チャグラマスは国立公園の一角にあり、前面のチャグラマス湾は東側の岬と湾前面の島で外海から守られた天然の良港になっている。国立公園内にはトレッキングコースやハイキングコースが整備され、乗馬体験、マウンテンバイク、オフロードバイクコースもあるが、海拔90mよりも高い場所は生物保護区に指定され、動植物の採集や狩は全面的に禁止され、他にも様々な制約を受けることになっている。国立公園内ではガイド付きの自然観察ツアーも行われている。この一角で最も目を引くのはヨットハーバーである。10年ほど前に、いろいろな制限を撤廃してヨットを係留しやすい制度を整えたとの事で、これにより世界中(主に、米、加、ヨーロッパ諸国)のヨット愛好家がヨットを係留している。何隻のヨットが係留されているかはわからないがかなり(恐らくは、1000隻以上)数に上る。ヨットの修理や補修、他ヨットに関連した様々な産業が行われかなりの盛況ぶりである。

< マラカスビーチ (Maracas Beach) >

マラカスビーチはポートオブスペインから峠を越え16Kmほど行った北側の海岸にある。途中ポートオブスペインからかなり急な坂道を登り峠へ到着し、見晴らしのいい場所で休憩をし、今度はかなり急な下り坂をマラカスビーチへと下る。マラカスビーチはマラカス湾の最奥部にある500~600mほどの砂浜で、砂浜には汀線よりやや陸側に背の高いヤシの木が波の浸食から砂浜を守りように植わっている非常に熱帯的な感じのビーチである。ビーチには地元の人と思われる家族連れや若者同士が思い思いにくつろいでいる。ビーチの後背にはスナック類を販売していると思われる屋台のような小さな店があるが、ビーチへ来た時刻が遅かったのか、あるいは金曜日だったので曜日が悪かったのか、店は一軒も営業していない。また、ビーチの後背には道路に面してそれ程大きくはないホテルがある。

バルバドス (8月16日)

<バルバドス野生生物保護地(Barbados Wildlife Reserve)>

町からは40分ほどの距離にあり、やや遠い感じがする。施設としては、動物園に類似している。一ヶ所で多くの種類の動物を観察できる施設としては評価できるが、自然状態からはかなりかけ離れている。名称が野生生物保護地(Wildlife Reserve)であるので、原生の自然の中に多数の野生生物が生息していることを想像していたため、予想していたものと異なっていた。家族連れなどを対象にした場合は評価できる施設だと思う。この施設の呼び物がサルであるが、サルは檻に閉じ込められているわけではなく、島内を自由に移動していて施設内で見られないこともある。今回は残念ながら見ることはできなかった。サルを見ることができなかった場合は、チケットにスタンプを押してもらい、後日このチケットを持参すれば無料で入場できるシステムになっている。

バルバドス野生生物保護地は1985年にカナダの国際機関(Canadian International Development Agency)の資金援助により建設されている。保護地区は、5エーカーほどのマホガニー林の中に位置している。マホガニーは家具材として有名であるが、バルバドスの在来の樹木ではなく、約250年前に移入された樹木である。保護地区内には、カメ、ウサギ、マガモ、クジャク、アヒル(ギニア産)、ワニ(ガイアナ産)ペリカン、ニシキヘビ、カワウソ、シカ等の多くの動物が飼われている。こら動物は、団体や個人から贈呈された動物達である。カワウソとニシキヘビは、イギリスの動物園から贈呈され、ペリカンはフロリダのサンコースト・海鳥保護区からの贈呈であり、カメは多くのバルバドスの人々からの贈呈による。この施設は、バルバドス霊長類調査センター(Barbados Primate Research Center)のプロジェクトの一つで、バルバドスのサル(Green Monkey)の繁殖、利用、保全を目的として運営されている。

<ハリソン鍾乳洞(Harrison's Cave)>

ハリソン鍾乳洞は、バルバドスで一番の観光地である。観光客数は他の観光地に比べると多い。鍾乳洞は、約20名乗りの電動トラム自動車で移動しながら見学できるようになっている。歩かずに鍾乳洞内を見学できるので、身障者や高齢の方々にとっては非常に便利な施設である。しかし、一方では、トラムを洞内へ引き入れるために鍾乳洞のかなりの部分が掘削され、鍾乳洞の自然景観が損なわれているのは残念である。電動トラム自動車は鍾乳洞の要所で停車し、ガイドがその場所の特徴について説明がある。それぞれの要所の自然造詣としてはそれなりの素晴らしさであった。

ハリソン鍾乳洞の発見は18世紀の初めに遡るが、本格的な洞窟調査が行われたのは、1970年代か

らである。その後、トンネル掘り込みや照明設備の設置等の鍾乳洞開発が行われ現在に至っている。鍾乳洞内には、洞窟の天井から垂れ下がる鍾乳石や床から立ち上がる石筍、鍾乳石と石筍が融合し柱状になった物や、石灰岩からしみだす清水の川やエメラルドの湖や滝等、素晴らしい景観が見られる。ハリソン鍾乳洞は、バルバドスの七不思議の一つとされている。

< ウェルチマンホール溪谷 (Welchman Hall Gully) >

ウェルチマン・ホール溪谷は、バルバドス・ナショナルトラストにより管理されている溪谷である。南ゲートと北ゲートがあり、北ゲートには駐車場が完備してある。今回は南ゲートより溪谷へ入った。ゲート周辺は通常の森であるが、遊歩道を下るに従い、植物はコケ類やシダ類が目立つ。ゲート近くの崖の下には、恐竜が生きていた時代（中生代）に繁茂していたと言われているコケ類が茂っていた。溪谷の底から周囲を眺めると、断崖の壁面や上部に木々が繁茂しているのが分かり、この場所が周りの台地から殆ど垂直に落ち込んで形成された溪谷であることがよく理解できる。溪谷内では溪谷独特の植生と思われるのも見ることができ、芝生が植えられ周囲にはヤシ、花卉類や樹木等移植さら種多く見られ植物園的な要素も多く見られる。溪谷という非常に独特な石灰岩地形であるので、自然のままの植生が上手く保全されていなのは残念に思えた。

溪谷 (Gully) とは、鍾乳洞の天井部が落ち込んでできた谷間で、外界とは絶壁で仕切られている。溪谷の内部は、地表から深く落ち込んでいるので湿り気があり、湿り気を好むコケ類やシダ類が繁茂している。溪谷 (Gully) は石灰大地の独特の地形であり、石灰岩の島であるバルバドスには幾つかの溪谷 (Gully) がある。

< フラワーフォレスト (Flower Forest) >

フラワーフォレストは植物園で、1983年に20年の準備期間を経て建設されている。園内には遊歩道があり歩道沿いに世界各地から集められた様々な植物が繁茂している。園内には非常によく整備がされていて、芝生が植えられている。広場があり、その周囲にはベンチも設置されている。芝生の上、あるいは、ベンチに腰掛けて憩うことも可能である。また、歩道には車椅子でも移動できる歩道もあり、健常者も障害者も植物園内を自由に見て回ることができるようになっている。園内は30～40分では見学ができる広さであるので、手軽に見て回れる観光施設としては非常にいい施設である。

ガイアナ (8月18日)

< ジョージタウン >

街中はコロニアル風の建物が立ち並び、水路が張り巡らされ、また、街路樹が多く、道路の幅が広く、所々崩れかかったコロニアル風の建物もあったが、街全体の景観としては統一が取れていた。町全体を世界遺産へ登録しようとの動きがある。

町の中心部近くに動物園とこれに隣接している植物園がある。今回は時間の都合上、植物園だけを見て回った。動物園への入場は有料であるが、植物園は誰でも自由に入れる無料の植物園で、町の公園として機能している。植物園はかなり広く、多くのくつろぐ町の人達を見かけた。園内には、マナティーを飼っている池がり、数頭のマナティーが水面に投げ込まれた草を食べているのを目撃できた。また、園内には椰子を街路樹として配したメインの遊歩道と平行にハス (蓮) の池があり、淡いピンクの花弁は、原色をイメージする熱帯の花と違って、落ち着いた雰囲気を出している。

これ以外にも園内には、熱帯特有と思われる蔓性植物や板根の非常に発達して大木なども見られ、園内を案内してもらっただけで十分にエコツアー的なツアーになる。上手に遊歩道等の整備をすれば、素晴らしい自然公園になると思われる。

セントルシア（8月21日）

< ホーレスティア・ホーレストトレイル(Forestiere Forest Trail) >

トレイルはもともと地域の人々が集落間を移動するのに使っていた交通路である。このトレイルは森林省の管理するトレイルで、利用するためには森林省の許可を得る必要がある。トレイルでは坂道には階段を付けたり、転落の恐れのある所には、転落しないように手摺り、あるいは遊歩道沿いに休憩の為のベンチを取り付けた程度で、それ程大きな改変を行った様子はない。出来るだけ自然の状態を改変させないような工夫がある。目だった植物（樹木）には、説明用のプレートがある。説明用プレートは、立て札型になっている。トレイル沿いに植わっている殆どの木々は樹高が30メートルもあるほどの大型の樹木で、幹に括り付けることができないので立て札型になったと思われる。

樹木には、板根を発達させている種類や気根を樹冠から垂らしている種類や、あるいは他の樹木に寄生し、大きく発達して気根で宿主を締め付けている絞め殺し植物など、熱帯・亜熱帯を象徴する種類が多い。殆どが非常に大きく、かなり成熟している森であることがわかる。熱帯の森のダイナミックさを感じることでできる非常に素晴らしい森である。コースは、行った道を戻ってくるタイプの遊歩道で、行きではスタッフの解説を聴きながら約45分を要した。

< グランド・アンスビーチ(Grande Anse Beach) >

この砂浜は大西洋側に面し、世界最大のウミガメであるオサガメが産卵する場所として有名などころである。この砂浜の後背地の森は私有地になっている。砂浜へ通じる道の入り口にはゲートがあり、入域がいくらか制限されている。ウミガメの産卵時期になると、泊り込みでウミガメの産卵を見に来るツアーがある。砂浜は、貿易風の影響で波が高く、また、砂浜後背地に生えている植物は風の影響を大きく受け、樹高が低くやや陸側へ傾いて植わっている。このことは、海浜の植物が恒常的に貿易風に晒されていることを示している。海浜には海浜性植物が植わり、内陸植生とは明らかに違いがある。砂浜には川が注いでいて、川の両岸にはマングローブが生えている。砂浜後背地には牛が放牧されている。また、砂浜には、セントルシアナショナルトラスト所有の小屋が二棟あり、宿泊施設として使われているようである。

砂浜の一角は乾燥していて、非常に独特の植生景観がありとても素晴らしいが、砂浜までの道がかなりの悪路で四輪駆動車でなければアクセスは不可能である。大変不便な場所であるが、このお陰で来る人が少なく海浜の自然が守れているとも言える。

< マリゴットビーチ(Marigot Beach) >

マリゴットビーチは、椰子に縁取られたとても絵になる小さな湾である。この湾は河口というわけではないが湾の縁はマングローブが繁茂している。ここでは、カヌーを借りて湾内のマングローブの観察を行った。マングローブの種類としては、ヤエヤマヒルギに似た種とヒルギモドキに似た種の2種である。湾はとても小さく、カヌーをゆっくり漕いでも、20から30分程度では湾を縁沿にすべて廻ることができる。規模としては小さいので熱帯のマングローブを想像しにくい。カヌーの使いやすさで見た場合は、規模が小さいので誰でもすぐにマングローブを観察することがで

きる。マングローブの規模としては小さいが解説を加えれば効果的なエコツーリズムではないかと思う。現在、湾には湾口的一方から他方へ渡し舟があり、この舟で観光客をマングローブ観察へ案内するのも一考可能である。

ジャマイカ（8月23日～24日）

<モンテゴベイマリパーク>

午前中に青年海外協力隊でモンテゴベイのマリパークで隊員として従事している中井隊員の案内でモンテゴ湾の最奥部でスキューバダイビングで調査を行った。沖縄に比べるとサンゴの種類はかなり少なく、ヤギ類やイソバナ、海面類の類が多い。サンゴは殆どが被覆状か塊状のサンゴである。テーブル状や枝状のサンゴは殆どない。枝状サンゴではミドリイシ類の2種だけであった。多分、スギノキミドリイシとニオウミドリイシである。

大型魚類はまったく見ない。マリパークは禁漁地域になっているが不法な漁業があとを断たない状況で、このことが大型魚類を見かけない理由であると説明された。ダイビング最中には魚用の籠ワナを見かけた。

<半潜水船での海中観察>

午後にマリパーク事務所近くの棧橋(ピア・ワン)から半潜水船にのり、サンゴ礁域を観察した。サンゴ礁域はモンテゴベイのリゾートホテル群を右手に見ながらモンテゴ湾を北上し、岬を回り、湾を少し出た湾の北側に位置する場所にある。このサンゴ礁域はマリパーク内ではサンゴの生育状態が最もいい場所である。サンゴ礁の地形は起伏に富み、サンゴの種類としては少ないが、石灰質岩盤の表面は殆どすべて生きたサンゴで覆われている。餌付けしているからだと思われる。熱帯魚は種類としては少ないが個体数は多い。特にロクセンスズメダイが多く、餌を持ったダイバーの体全体を覆い隠すほど群がっていたのは大変印象的であった。展望室のガラスの透明度が悪く、サンゴや魚、海底地形をよく観察できないのは残念であった。サンゴ礁域ではシュノーケルをする時間があり、シュノーケルで海底地形やサンゴ、熱帯魚などを楽しむことができる。海底地形は起伏に富み、非常にダイナミックである。

<ファルモースでの夜光虫観察>

モンテゴベイから東へ30km余りのところにファルモースがある。ここでは、マングローブの繁茂している海岸と沖合の島との間の浅瀬の海峡で夜光虫を見る事ができるツアーを実施している。夜光虫の正体はべん毛虫と言う植物性プランクトンであり、世界中の海に分布している。ファルモースでは夜光虫の正体であるべん毛虫が非常に高密度で分布しているので、少し水を掻き回しただけでも夜光虫が発光し水が光って見える。まさに光る水(Glistening Water)の由来である。このように夜光虫が非常に高密度で分布している場所は世界中にファルモースの他にあと2ヶ所という観光地である。

夜光虫を見に行くためには、船着場から15、16人程度乗船できる船外機付ボートに乗り沖合へ行く。沖縄の海でも夜に水を掻き回すと夜光虫が発光することがあるが、舟の立てる引き波で舟の周り全体が明るくなることはありえない。このツアーで最大の目玉は舟の接近に驚き逃げる魚の形(影)が光って見えることである。魚がもっと多ければ、舟の接に驚いた多くの魚が四方八方へ離散していくのは大変感動的であり、人気の観光スポットとして評価できる。

<竹筏のラフティング>

マーサ・ブレア川では竹筏でのラフティングが行われている。筏は全長6m、直径10cm程度の乾燥した竹を14、15本程度組んだ幅は1.5m弱程度の細長い竹製の筏である。筏には二人がけの竹製の簡単な椅子が取り付けられている。これにラフトマン（筏師）がのり、1時間程をかけゆっくりと川を下っていく。ラフトマンは筏師兼ガイドであり、途中様々なことを話しながらお客さんを案内していく。今回は残念ながらラフティングを体験することはできなかった。竹筏ラフティングはオーチャリオス近くのホワイトリバーやポートアントニオのリオグランデ川でも行われている。竹筏のラフティングはジャマイカを代表的な観光アクティビティの一つである。因みに、竹筏に使われている竹は、外来種でジャマイカの自然生態系の影響が危惧されている。

<ダンスリバーの滝登り>

ダンスリバーはオーチャリオスから西側に3kmほど行ったところにある。ダンス・リバーは、ダンス・リバー国立公園の中にある全長200m程の緩やかな滝である。この滝は滝の一番下がビーチになっていて、ビーチから滝を登っていくことになっている。ビーチからは滝登りのツアーもあり、ツアーに参加する人達は水着にスニーカーを履いてガイドを先頭にして全員手を繋いで滝を登っていく。滝の水は非常に冷い。水は少し白っぽく、ミネラル分が多量に溶け込んでいるせいであると思われる。滝を水着で這い上がっていくことは頻繁にすることではないが、熱帯の暑い地域では、冷たい滝の水で涼をとりながら滝を登っていくのは格別の体験となる。ダンス・リバーの滝登りは、ジャマイカ観光の最大の目玉として毎日多くの観光客が訪れるのもこの辺に理由があると考えられる。

本研修コースへの団長総括と提言

1. 総括

(1) リゾートとしての評価

熱帯雨林が発達し、植物相はやや単調で、特徴的な動物はみられないが、多くの鳥はみることが可能でバードウォッチングには適している。

歴史的には、アメリカ合衆国と同じかそれよりも古い開発の歴史を持ち、元からすんでいたカリビアン文化の上に、ヨーロッパの文化とアフリカの文化が混在している。

アメリカやカナダの市場に近く、ジャマイカやバルバドス、トリニダード・トバゴを拠点として、航空交通網が発達し、ヨーロッパの支配下にあった歴史を反映して、イギリスやパリからは直行便で結ばれている。

バルバドスには、週1回、コンコルドが就航し、カリブ海地域のステータスを高める効果を持っている。また、フロリダからの大型クルーザーによる来訪も多く、海空ともにネットワークが発達した地域となっている。

乾季にあたる冬がトップシーズンとなっており、北半球の海洋性リゾートの大部分が夏型であることを考えると、他のリゾートとの競合が少なく、避寒地としての地位を確立している。

観光形態のひとつであるエコツーリズムについては、その考え方やコンセプト、実施方法等に関して詳しく分析されており、実施計画にあたる計画書なども作成されている。特にCaribbean Tourism Organization (CTO)では、カリブ諸国全体のエコツーリズムのあり方について、詳細な報告書がまとめられており、意識の高さが伺える。

宿泊施設は、スーパーリッチ層をターゲットとした施設から家族やビジネス客を対象とした施設まであり、バラエティーに富んでいる。多くの宿泊施設ではクローズドシステムを採用しており、セキュリティを厳しくして、施設内へ入ることを制限している。

宿泊施設や飲食施設についても、リゾートとしての平均的な要件を満たしており、各々の施設が個性を持って需要に対応している点は評価できる。

(2) 持続可能な観光開発に関して

持続可能な観光振興では、エコツーリズムを中心として、実施方法等が検討されているが、これを実施した場合の地域振興への影響などはあまり考慮されていなかった。

特に雇用促進や所得向上といった社会経済効果に関しては、分析が追いついておらず、エコツーリズムを実施した結果、地域がどのように潤っていくかに関しては、分析が不十分であるという印象を受けた。

また環境の保全といった場合には、自然環境の保全とともに、社会環境の維持に関しても考慮すべきであるが、これに関する分析が足りないと思われる。地域の伝統文化や歴史性、さらには行祭事などを組み込んだツーリズムのあり方も同時に考え、観光・リゾートの素材として活用していく視点が必要である。

エコツーリズムの内容に関しては、自然体験型の観光とエコツーリズムの区別がついていないようであった。自然体験型の観光は、マストツーリズムの一形態であり、純粹に環境を保全しながら自然環境や社会環境を利活用するエコツーリズムとは、本質的に異なっている。

(3) ホスピタリティーの課題

資源、施設ともに国際的リゾートとしての要件を満たしているが、ホスピタリティーの面では水準を下回ると判断せざるを得ない。各施設におけるサービスも標準化されておらず、働く人々の職業意識は高いとはいえない。

リゾート地としての基本的なインフラ整備の面では、空港などは新しく機能的であるが、空港からホテル、ホテルから各観光スポットまでの案内標識が充分でなく、観光客を混乱なく誘導しているとは思えない。

タクシーの中に地図などもなく、観光客に対していささか不便である。タクシーは、車両の程度にばらつきがあり、程度の良い車から、廃車寸前の車両まで混在している。

エアコンが効かない車両も多く、埃っぽい道では快適性が満たされていない。ドライバーの訓練も充分ではなく、客の生命を預かっているという意識に乏しく、客を安全に的確に目的地まで運ぶという基本的な考え方が浸透していない印象を受けた。

ドライバーが目的地を知らない、あるいは地名を告げてもわからない場面が時折みられ、プロ意識の欠如を感じた。また領収書等の発行に関しても、用紙そのものを常備しておらず、速やかに発行することができなかった。

空港では、国際空港でありながら、航空券の発券からイミグレーションまでの手続きが遅く、手際の悪さが目立った。航空券の発券では、どの空港のカウンターでも長い列ができており、対応する係員の熟度や能力に問題があると思われる。

また、欠航になった場合の情報提供のあり方や、優先順位の付け方、客に対する約束などに問題があり、国の玄関口でありながら、不愉快な思いをさせてしまう場合がみられた。また照明などは、電気のつかないものをそのままにしてあるなど、細かな配慮に欠けている。

宿泊施設では、ホテルマンとしての基本的な技術は身につけているもののルーム清掃に関しては信頼性がなく、アメニティーグッズやギフトアウェイが揃っていない、あるいは隅々まで清掃が行きとどいていない場合がみられた。またバスルームのお湯がでないのは当たり前ようになっており、給湯能力の不足を感じた。概して水回りは、衛生的とはいえない状況である。

このように、国際的なリゾートとして知名度も高く、魅力的な地域であるにもかかわらず、それを支える人的な配慮に最大の問題がある。宿泊施設や交通機関、ターミナル施設でのホスピタリティーに課題が大きければ、これを嫌う人々は、大型クルーザーによる訪問を選ぶことになる。

(4) 人材育成の必要性

リゾート開発の中では、人材育成が重要である。施設の整備が行われても、これを支えるのは最終的に人であり、そのホスピタリティーの水準によって、施設のステータスが決まってくる。

次に滞在メニューの作り方が重要である。これは長期滞在用(リゾートメニュー)と、クルージングでやってくる人々のためのメニュー(観光メニュー)がある。これを理解するためには、観光とリゾートの違いを認識することが必要で、そのためのトレーニングが重要となる。

これらを統括し、行政指導を行い、政策立案を行う、政府(行政)における、リーダーが求められる。特に地域振興の視点から、持続可能な発展のために、リゾートを中心とし、環境を利活用した政策が立案できる人材の育成が求められる。

現場における細かなホスピタリティーの技術は、行政指導をする立場の管理者が、その地域で何がかけているかを理解すれば、行政と教育機関の連携によって改善できる。滞在メニューも、行政担

当者がその地域の特性を理解して、基本的な方針を立てることができれば、民間の知恵を利用して具体的な内容を検討することが可能となる。

したがって、観光・リゾートを永続的に維持していくためには、地域の行政に関わる人の中から、リーダーとなる人材を育成することが効率的と思われる。中核となる人材を確実に育てていけば、その人が中心となって、観光・リゾートに関わる人材は次々と育成される。

(5) 日本の役割

この地域には、ハード的には欧米の支援があり、日本の支援は比較的小さいが人材育成面での協力の可能性がある。日本のホスピタリティは世界に誇れるものであり、観光産業を支える上で重要なファクターである。

2. 研修にかかる提言

1. 研修の意義

前述したように、カリコム諸国には、ハード的には欧米の支援があり、日本の支援は比較的小さい。しかしながら、人材育成分野では貢献できる面があり、人材育成を通じて日本とカリコム諸国がネットワークを構築し、将来的に日本とカリコム諸国が互いに助け合っていける関係を築く事が有意義であると思われる。現在、沖縄では類似した気候、地理的条件及び産業構造を有し、これらの地域に欠落しているホスピタリティー産業において、すばらしい接遇技術を持っている。さらに、その産業を支える基礎研究や教育を行っている高等教育機関を有している。沖縄での研修を通して、わが国とカリブ海諸国との連携を深めていくことが重要であり、ホスピタリティーに関する技術移転を行い、エコツーリズムを中心とした持続可能な開発と発展の政策立案を指導していくことは、カリブ海諸国及び我が国、両者にとって有意義なことである。

2. 研修内容/カリキュラム

カリキュラム内容に関しては、多くの訪問機関から現状(案)のカリキュラムで満足との回答を得ている。追加項目の要望の中で、エコツアー商品の開発に関しては、沖縄のエコツーリズムの現状紹介の中で幾らかの工夫をすれば対応できると思われる。環境収容力の算出と基準については、環境要因や観光施設の有無及び観光者の活動形態により大きく変わり一概に述べていくのは非常に難しいが、自然環境や社会環境を適切に保全していくには是非必要な事なので、環境保全の講義の中で対応していきたい。グリーンエネルギーの項目については、本研修の目的がからするといくらかずれがあるので対応はできない。また、指導者養成のカリキュラムについては、本研修修了者が母国で作り上げていく事を期待したい。ゆえに、カリキュラムについては大洋州を対象としたコースを基本として行っていきたい。

応募者の資格要件については、参加者が本研修の内容を理解でき課題をこなせる事、本研修で習得したことを母国の観光開発に活かせる事を前提とした条件であるので、この方針を変更する事は特に考えていない。しかし、対象国の事情については十分に配慮し、特に必要だと思われる事については、例外的措置を行っていく事を考えていく。

以上の調査結果を踏まえて、平成15年度中にカリコム向けの新設コースを実施する。

研修コースの留意点及び概要は以下のとおり。

準備期間及び名桜大学の大学としてのスケジュールを鑑みると新規コース実施は、平成16年2月～3月の間の1ヶ月間程度

年齢は40歳以下の比較的若い人材をターゲットとし、現職の資格要件は、観光行政官だけでなく、エコツーリズムの企画にかかわる人材も含める。

カリコムはサンゴ礁の国以外にも、火山国も存在しているが、地理的相違があまるものの、研修内容の重点は、「地域発展の持続性」をいかにして実現するかであり、エコツーリズムはその一形態と考える。また、地域の環境に関しては、これらを「持続的発展」の素材としてとらえ、サンゴの如何にかかわらず、陸域・海域双方を含めた「保護」と「利活用」を考えていく。

大洋州とカリコム地域の相違と類似点（今回の研修の特徴）

「発展の持続性」に関して、その理論と実践例について講義を組み上げている点は同じであるが、今回は特に観光・リゾートを核とした「発展の持続性」に関する理論的検証を行う。カリコムは、すでに欧米の市場は確保されており、交通利便性に関しても、大洋州よりは充実している。大洋州と相違するところは、受入観光地としてのホスピタリティーのあり方や、マネジメントに関して講義を付加している。

研修目標

「発展の持続性」について理解することを重点に置く。

- (1) 自然環境は、発展に対して単なる素材として存在すること。
- (2) 観光客を誘致し、消費を誘導するだけでなく、地域内における経済の循環が必要であること。
- (3) 環境といった場合に、自然環境だけでなく、社会環境も含まれること。
- (4) このような視点に立って、観光・リゾートの政策が立案できること。あるいは、地域の総合発展計画が立案できること。
- (5) ホスピタリティーの重要性と人材育成の重要性を理解すること。

単に金銭を得るためだけに観光産業に従事するのではなく、人を思いやる気持ちが観光客に対して付加価値を与えることを理解し、基本的なインフラ整備を含めて、滞在の快適性を確保していくことが重要であることを理解する必要がある。

その実現のためには、観光客のために何かをするのではなく、地域住民のためにすること（生活利便性の向上）が、観光客の満足度を高めること（滞在快適性の向上）と等しいことを理解する。

体系的な人材育成の方法論とカリキュラム例に関して理解し、実践できる能力を身につけることを念頭において、新規コースを実施する。

1 . 関係機関 / 訪問先面会者一覧

<トリニダード・トバゴ>

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

釣田 薫 一等書記官

高野 和行 二等書記官

Tourism and Industrial Development Corporation of Trinidad and Tobago (TIDCO)

Mr. Leon Lue Yat , Executive Officer , Office of the President

Ms. Nadine Ramdial Marketing Information Officer, Tourism Div.

Ms. Sina Singh Team Leader, Tourism Planning Department

Mr. David Bazil Economist

Mr. Kerrygan Roach Manager, Human Resources

Ms. Jody Chow Officer, Product Div.

<バルバドス>

Caribbean Tourism Organization (CTO)

Ms. Yvonne Armour-Shillingford Technical Adviser/CTHRC Coordinator

Ms. Mercedes Silva Sustainable Tourism Specialist

Ms. Joan Leacock Technical Adviser

Ministry of Tourism and International Transport

Ms. Gabrielle A. Springer Chief ,Tourism Development Officer

Ms. Nicole N. Belle Tourism Development Officer

Ms. Francia Jordan Chief, Research Officer

<ガイアナ>

Ministry of Foreign Trade and International Cooperation

Mr. Clement J. Rohee Minister

Mr. Donald Abrams Director,
Department of International Cooperation

Caribbean Community (CARICOM) Secretariat

Mr. Byron Blake Assistant Secretary General,
Regional Trade & Economic Integration

Dr. Gem Fletcher Consultant, Sectoral Programme

Mr. Shigemaro Aoki Project Identification Expert (JICA)

Ms. Franzia Edward Deputy Programme Manager,
Resource Mobilization & Technical Assistance

Ministry of Tourism, Industry and Commerce
Mr. Walleet Hamilton Permanent Secretary

Guyana Tourism Authority (GTA)
Mr. Walleet Hamilton Permanent Secretary
Mr. Donald Sinclair Executive Director, National Exhibition Centre

<セントルシア>

Department Forestry , Ministry of Agriculture, Forestry & Fisheries
Mr. Michael Andrew Deputy Chief, Forestry Officer
Mr. Cornelius Isacc Assistant Chief, Forestry Officer
Mr. Michael Bobb Assistant Chief, Forestry Officer
Mr. Andrew Toussaint Officer in charge of Environmental Education

Organization of Eastern Caribbean States (OECS)
Dr. Wayne Sandiford Senior External Economic Relations Officer
Mr. Paul A. Payne Coordinator, OECS/GTZ Technical &
Vocational Education & Training Project
Dr. Vasantha Chase Head, Environment & Sustainable
Department Unit
Ms. Daphne Vidac Tourism Policy Officer,
Economic Affaires Division

<ジャマイカ>

在ジャマイカ日本国大使館
大西 一等書記官

JICA ジャマイカ駐在員事務所
熊谷 信広 首席駐在員
Ms. Lorna Wallace Programme Officer

Montego Bay Marine Park Trust
Ms. Jill Williams Executive Director
Dr. Tadaaki Nakai JOCV Volunteer

Dolphin Head Trust
Ms. Kyoko Horikoshi JOCV Volunteer
Mr. Akiyoshi Fujii JOCV Volunteer

Ministry of Industry & Tourism

Ms. Carrole A.M. Guntley	Director General
Ms. Wendy McDaniel	JICA Ex- participant
Ms. Jody Key Neill	Administrative Assistant to Director General

Jamaica Tourist Board

Mr. Donovan Donaldson	Public Relations Officer
-----------------------	--------------------------

Tourism Product Development co .

Ms. Mary Helen Reece	Director of Standard
----------------------	----------------------

2 . 調査団説明用ドラフト : Course Information (Draft)

Sustainable Tourism Development in CARICOM Member Countries (J-03-21643)

February 3, 2004 ~ March 13, 2004

Preface

The Japanese Government extends official development assistance (ODA) to developing countries to support self-help efforts that will lead to economic progress and a better life for the citizens of those countries.

Since its foundation in 1974, the Japan International Cooperation Agency (JICA) has implemented Japan's technical cooperation under the ODA programme.

Currently, JICA conducts such activities as training, dispatch of experts, provision of equipment, project-type technical cooperation, development study, dispatch of cooperation volunteers (JOCV), survey and administration of capital grant aid programmes.

The training programme for overseas participants is one of JICA's fundamental technical cooperation activities for developing countries. Participants come from overseas in order to obtain knowledge and technology in a wide variety of fields.

The objectives of the JICA training programme are;

- 1) to contribute to the development of human resources who will promote the advancement of developing countries, and
- 2) to contribute to the promotion of mutual understanding and friendship.

The objective of the course is to enhance the understanding of sustainable development in tourism, especially in island environment. In the course, general understanding of island tourism and island tourism plan, etc are going to be provided as a introduction, and how environmental preservation and development would be archived in sustainable manner and what kinds of tourism items or developments would be desired for environmental friendly development, such as eco-tourism, etc are going to be provided as a specialized study.

I. ESSENTIAL FACTS

COURSE TITLE(No.)	Sustainable Tourism Development in CARICOM Member Countries (J-03-21643)
DURATION	February 3,2004 ~ March 13,2004
DEADLINE FOR APPLICATION	November 25,2003 for acceptance in the JICA office or the Embassy of Japan
NUMBER OF PARTICIPANTS	10
LANGUAGE	English
TARGET GROUP	Governmental officers who currently partake in a promotion or a planning and development of tourism.
COURSE OBJECTIVES	Upon the completion of the course, the participant is expected 1) to acquire ideas for the sustainable tourism development and management in environment. 2) to acquire methods for the tourism development and the tourism policy especially designed for island regions and costal regions, with environmentally friendly manner. 3) to learn specific development methods such as marketing and promotion for tourism. 4) to be able to draft a plan for the sustainable tourism development in his/her country as island region and costal region.
TRAINING INSTITUTION	Department of Tourism and Environment, Graduate School of Meio University 1220-1, Bee-mata. Nago, Okinawa 905-8585 , JAPAN Phone : +81-980-51-1100 Fax : +81-980-52-4640 E-Mail: info@meio-u.ac.jp
ACCOMMODATIONS	Okinawa International Centre (OIC), JICA 1143-1, Maeda, Urasoe-shi, Okinawa-ken 901-2552, JAPAN Phone : +81-98-876-6000 Fax : +81-98-876-6014 http://www.jica.go.jp If no room is available at OIC, JICA will arrange accommodations for participants at other appropriate places.
ALLOWANCES & EXPENSES	The Government of Japan bears the following allowances and covers the following expenses through JICA in accordance with relevant laws and regulations. <u>Details</u> Round-trip air ticket between an international airport designated by JICA and Japan, accommodation allowance, living allowance, outfit allowance, book allowance, shipping allowance, expenses for JICA study tours, free medical care for participants who become ill after arrival in Japan (costs related to preexisting illness, pregnancy and dental treatment are not included), etc.

Target Countries : (The Following 13 Countries, Except : The Bahamas and Montserrat)
 (1) Antigua and Barbuda (2) Barbados (3) Belize (4) Dominica (5) Grenada (6) Guyana
 (7) Haiti (8) Jamaica (9) St. Kitts and Nevis (10) Saint Lucia
 (11) St. Vincent and the Grenadines (12) Suriname (13) Trinidad and Tobago

CURRICULUM

The training is conducted through the following lectures, exercises, and observations.

*Before the beginning of the training course, General Orientation (3 Days session) including Briefing, Introduction to Japan, and JICA Opening Ceremony is given at OIC, JICA,

1) Lectures (12 Days)

Lectures are given at the Meio University on basic tourisms and tourism phenomena, especially on islands, and environment conservations, especially on island environments. These lectures are design for the participants enabling to draft strategic plans for the sustainable tourism development.

Tourism Administration in Japan	1 Day
Tourism Policies of Island Regions (Okinawa)	1 Day
Sustainable Tourism Development	2 Days
The Impact of Tourism on Regional Development	2 Days
Environmental Conservation	2 Days
Regional Promotion Policies	2 Days
Marketing and Promotions of Tourism, etc.	2 Days

2) Observation(s) and Study Tour (3 Days)

Observation(s) and study tour enable the participant to actually assess the present situations of the resources and the developmental stage of tourism in island regions where the harmony between the tourism and the conservation of natural environment are aimed.

3) Exercises (4 Days)

Participatory exercises such as "Eco tourism" will enrich the experiences of the participant as specific cases of sustainable tourism.

4) Drafting of Action Plan (5 Days)

(1) Presentation of Country Report

At the initial stage of the course, each participant is expected to present a country report, which will promote mutual understandings of the present tourism of one another to form a good foundation for discussion. The students at the Department of Tourism of the Meio University are invited for discussion.

(2) Drafting of Action Plan

Near the closing of the course, each participant is expected to draft and report an action plan for the sustainable tourism development for his/her country. The knowledge and the techniques acquired in the course would be very important. The students of the Meio University are also invited for discussion.

. REQUIREMENT FOR APPLICATION

Applicants should:

- 1) be belonging to a section, which engages in the promotion or the planning and development of tourism under a governmental department.
- 2) be university graduate or equivalent,
- 3) be proficient in speaking and writing English. Experiences have shown that many participants find themselves unable to make progress in their training because of inadequate knowledge of English.
- 4) be under forty (40) years of age,
- 5) be nominated by their government in accordance with the procedures mentioned in IV. below,
- 6) be in good health, both physically and mentally, to undergo the course of training (as the schedule includes too many field works for pregnant women, pregnancy is regarded as a disqualifying condition for participation to this training course), and
- 7) not be serving in the military.

ATTENTION

Participants are required:

- 1) not to change training subjects or extend the training period,
- 2) not to bring any members of their family,
- 3) to return to their home country at the end of the training course according to the international travel schedule designated by JICA,
- 4) to refrain from engaging in political activities or any form of employment for profit or gain, and
- 5) to observe the rules and regulations of their place of accommodation and not to change accommodations designated by JICA.

. PROCEDURES FOR APPLICATIONS

1. A government desiring to nominate applicants for the course should fill in and forward one (1) original and three (3) copies of the Nomination Form (FormA2A3) for each applicant, to JICA Office (or the Embassy of Japan) by November 25, 2003.
2. The JICA Office (or the Embassy of Japan) will inform the applying government whether or not the nominee's application has been accepted no later than by January 5, 2004.

3. COUNTRY REPORT

Before coming to Japan, participants are required to prepare a report which states sustainable tourism development in their country. This report should be typewritten in English, in accordance with the attached form (ANNEX), and submitted with the Application Form.

4. PANEL EXHIBITION

Panel exhibition of each country will be held at Meio Univ. for the students and local residents. Please bring such items as photographs, poster, pamphlet, video, DVD etc, together with a simple introduction of your country.

V. OTHER MATTERS

1. Pre-departure orientation is held at JICA overseas offices (or the Embassy of Japan) to provide the selected candidates with details on travel to Japan, conditions of training, and other matters. Participants will see a video, "TRAINING IN JAPAN", and will receive a textbook and cassette tape, "SIMPLE CONVERSATION IN JAPANESE". A brochure, "GUIDE TO TRAINING IN JAPAN" will be handed to each selected candidate before (or in the time of) the orientation.
2. Participants who have successfully completed the course will be awarded a certificate by JICA.
3. International Exchange Programme with Local Communities
JICA encourages international exchange between JICA participants and local communities. Therefore, participants are strongly recommended to bring their national costumes, and materials such as slides, videos, cassettes and photographs that will make the exchange programme more fruitful.

ANNEX

COUNTRY REPORT OF THE COURSE ON SUSTAINABLE TOURISM DEVELOPMENT IN CARICOM MEMBER COUNTRIES.

1. Name of applicant / country
2. Your organization
 - (1) Name (2) Position
 - (3) Organizational chart: Please attach an organization chart, from the top to the lowest level in your organization and indicate the section to which you belong.

3. Brief description of the tourism information in applicant's country.
 - (1) Tourism fact sheet (as per attached in the following pages)
 - (2) Political system and economy
 - (3) Are there significant negative environmental impacts of tourism or general development in your country or region? If so, what are these, and what have been done or what do you think should be done to mitigate the impacts?
 - (4) Are there sociocultural problems resulting from tourism or other types of development in your country or region? If so, what are these, and what have been done or what do you think should be done to mitigate the problems?

4. General policies and priorities on tourism development
 - (1) National tourism administration (organizational charts with explanatory remarks)
 - (2) Plans and programmes for tourism development created by the government
 - (3) Foreign investment legislation and government incentives to foreign investors
 - (4) General tourism policy objectives and priorities given by the government
 - (5) Government aid and incentives to the tourism industry
 - (6) Human resources training system/ organization

5. Select more than one (1) tourist site in your country and describe the following issues from the viewpoint of sustainable tourism development.
 - (1) Basic statistics (number of tourists, capacity of tourism facilities, etc.)
 - (2) Topography (rural, urban, coastal, hillside, etc.)
 - (3) Type of resources for tourism (natural, cultural, educational, etc.)
 - (4) Accessibility (infrastructures such as railroad, airport, port, road, etc.)
 - (5) Relation with other industries (agriculture, forestry, fisheries, mining, manufacturing, etc.)
 - (6) Involvement of the community
 - (7) Enforcement of regulation such as Environmental Impact Assessment (EIA)
 - (8) Major problems that you are facing regarding tourism development in coordination with environment.

6. Specific area of interest

Participants should indicate their specific area of interest, taking into account the curriculum of the training course.

General description of domestic & interregional transport	
Climate:	
Kind of tourism resources	Main destinations & features (Please designate UNESCO World Heritages, National Parks, and National Treasures, if any)
N a t u r a l	Coasts, bays, islands (Beaches, capes, coral reefs)
	Mountains, Lakes, Rivers, ravines, waterfalls
	Flora & Fauna (Wildlife, animal watching, eco-tourism)
	Sports tourism & others
C u l t u r a l	Historical/ancient heritage
	Pilgrimage
	City tourism (including architecture, museums & gardens)
	Performing art (including Festivals and events)
	Others

Please provide a map with main destinations.

写真集



写真1．チャグラマスのヨットハーバー
中央の屋根に灯台の乗っかっている建物にはレストラン（2階）と雑貨店（1階）が同居する。後背の山は自然保護区になっている。



写真2．マラカスピーチ
弓なりの湾に真っ白な砂浜と砂浜を縁取る背の高いヤシの列。熱帯の雰囲気を醸し出している絶景のビーチ。



写真3 パルパドス野生生物保護地
敷地内にはカメやシカ、ウサギ等が放し飼いになっている。



写真4 ハリソン鍾乳洞電動トラム列車
この列車に乗り鍾乳洞内をめぐる。



写真5 電動トラムが通る坑道
鍾乳洞は電動トラムを通すために壁が四角に削りこまれている。

写真6 ウェルチマンホール渓谷の中の遊歩道
渓谷内は、熱帯を象徴するヤシ類や気根で岩に巻きつくガジュマル類等の熱帯性の植物が多く茂る。





写真7 フラワーフォレストの路傍の色鮮やかな花
園内の遊歩道は色鮮やかな花々が植栽されている。



写真8 園内の芝生の広場
園内には芝生の広場があり、ピクニックには最適の場所である。



写真9 コロニアル風の建物の多い首都ジョージタウン



写真10 巨大な板根の切り株
植物園内には大木が多く植わりその多くはともモユニークである。



写真11 トレイルの入り口の看板
森林省の管理である事が明記され、ツアーする上での心がけが謳われている。「取るのは写真だけ、残すのは足跡だけ」。



写真12 森林の中の様子
林内は大木が茂り、昼でも薄暗い。イチジクの仲間の絞め殺し植物の大木は人目を引く。

写真集



写真13 マリゴットビーチと湾口
マリゴットビーチへは湾口を手前側から小船で渡る。



写真14 湾内のマングローブ
湾の陸側はマングローブが鬱蒼と茂る。



写真15 カイメン類
ヤギ類やイソバナ類、カイメン類が多く見られる。



写真16 不法なカゴワナ
ワナの中に魚の頭等の餌をいれ魚を誘き寄せるとのこと。



写真17ダイバーに群がる小魚
客へのアトラクションの一つで餌で小魚を集める。



写真18 夜光虫の説明をするガイド
栈橋から5分ほど行った所で夜光虫の事について説明する。
説明によれば夜光虫で水面が光るのは世界に3ヶ所あるとのこと。

写真19 ロープに繋がれた竹筏
竹筏の高くなっている所がお客の腰掛ける場所。
お客が2名と筏師1名の3名乗りの筏。



写真20 ダンズリバーの滝登り
ダンズリバー最下部は海岸(砂浜)になっている。ここから大勢の人が上流を目指し滝を登っていく。



写真21 ダンズリバー沿いの木道
ダンズリバー周辺は植物園になっていて、遊歩道や木道が整備されている。